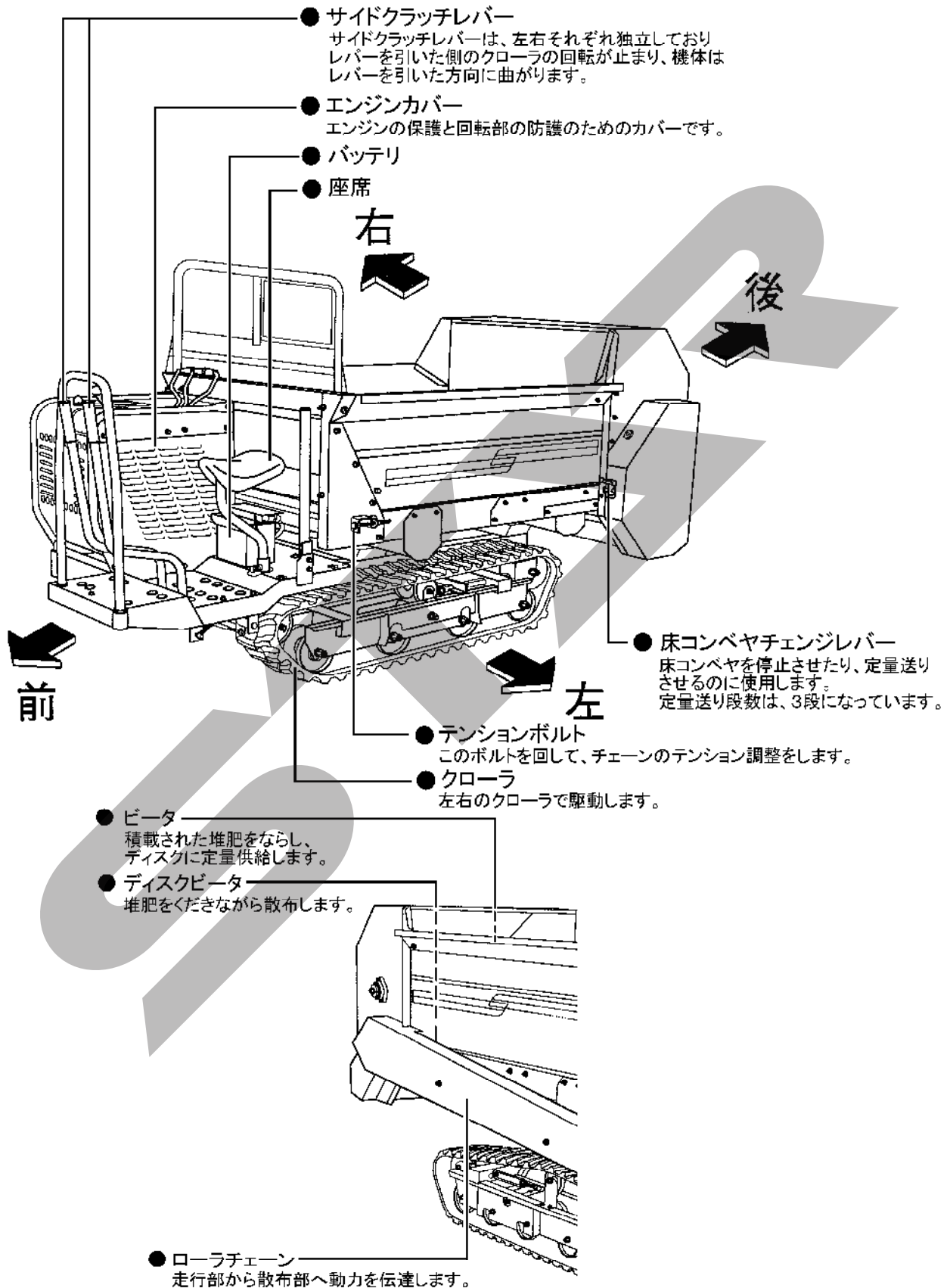
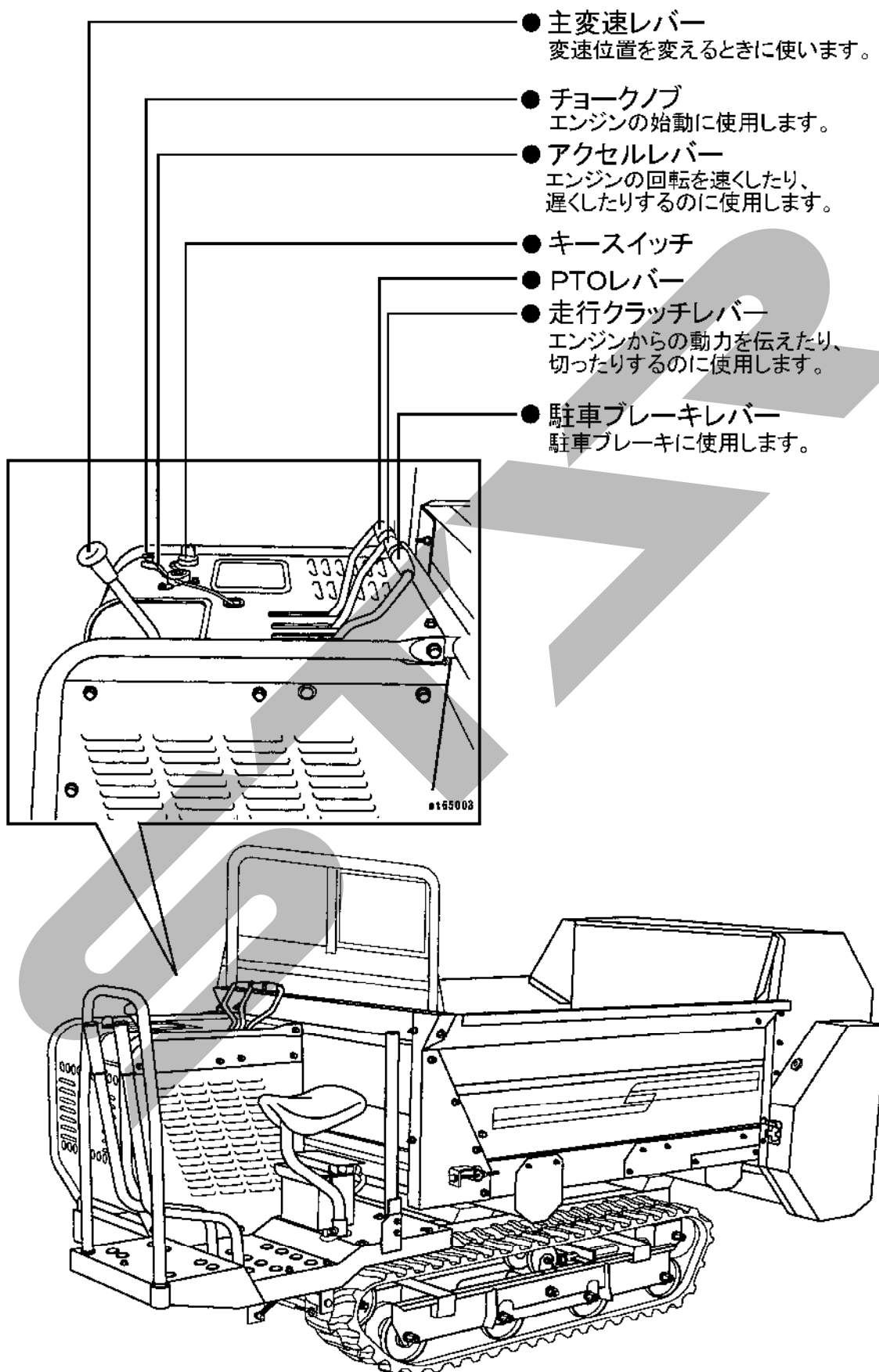


各部のなまえ





運転と作業のしかた

1. 運転前の点検

⚠危険

燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明は絶対に使用しないでください。

エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、注油・給油は絶対にしないでください。

燃料補給後は、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭きとってください。

燃料パイプが破損していると、燃料もれをおこしますのでかならず点検してください。守らないと、火傷や火災をおこすおそれがあります。

⚠警告

点検、整備は、交通の危険がなく機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で歯止めをした上で行ってください。さもないと、思わぬけがをするおそれがあります。

マフラー・エンジン回りのゴミは取除いてください。火災事故やオーバーヒートを引き起こすことがあります。

⚠注意

点検、整備を行うときは、本機のエンジンを停止させてください。守らないと思わぬけがを負うおそれがあります。また、高温部分が冷えてから行ってください。高温部に触ると、火傷をするおそれがあります。

点検、整備などで取外したカバー類は、かならず取付けてください。守らないと機械に巻き込まれて、傷害事故をおこすおそれがあります。

感電ショック防止のため、運転中はプラグコード、プラグキャップ、点火プラグ部に触れないでください。

安全で快適な作業を行うには、本機を使用する前に必ず始業点検を行い、異常箇所は直ちに整備してから作業を始めてください。また、作業終了後も点検を行って異常がないかチェックしてください。

点検は次の順序で行ってください。

前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば作業に支障がないか点検します。

本機のまわりを回ってみて

各部の変形・損傷・汚れ
走行ミッションオイルの油もれ
クローラの張り具合・摩耗度合・損傷
転輪取付けボルト・ナットのゆるみ
車体各部の損傷、ボルトのゆるみ
エンジンオイルの量と汚れ、油もれ
燃料の量と燃料もれ燃料パイプの損傷
エアクリーナの汚れ
マフラーなどの高温部分のほこりやゴミ
配線コードの被覆のはがれや接続部のゆるみ
バッテリー液の量
床コンベヤチェーンのテンション
ローラチェーンのテンション
各部の給油

レバーを操作してみる

各レバーの遊び量

エンジンを始動してみる

エンジン始動後の異音
排気ガスの色
各レバーの作動状態

P T Oを接続して

走行部から散布部にかけての異常
ディスクビータの異音、異常な振動

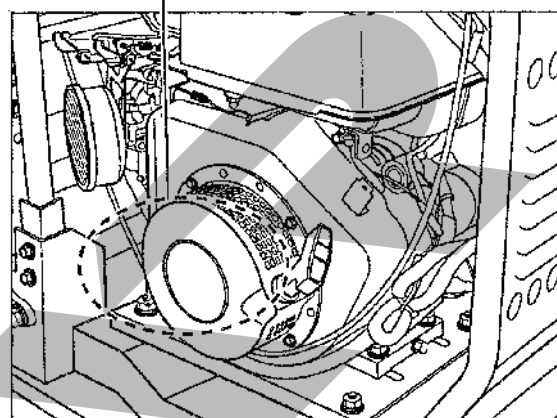
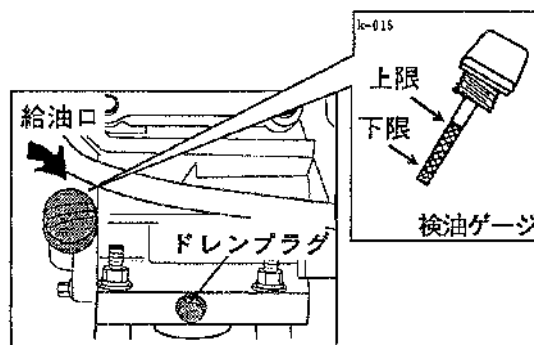
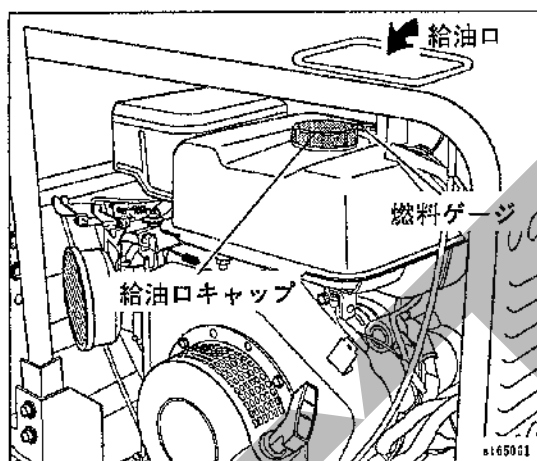
2. 燃料の点検・給油 のしかた

⚠危険

燃料をあふれない程度に入れてください。
機体が傾斜したときに燃料キャップから燃料
があふれることがあります。
万一、引火した場合、火災のおそれがありま
す。

点検

燃料タンク上面の燃料ゲージで、燃料の残量を調
べ、不足している場合は、上部の給油口からあ
ふれないように補給してください。



交換

エンジクラク室の給油口を取外してから、ド
レンプラグを外して汚れたオイルを流し出します。
給油は、給油口より検油ゲージの規定量 (1.20)
まで入れてください。

取扱い上の注意

- オイルの量は、エンジンを停止して調べて
ください。
- 給油するときは、本機を必ず水平にして行
ってください。
- 給油するオイルは必ず規定のオイルを使用
してください。
- エンジンが熱いうちはおこなわないでくだ
さい。
- 熱いオイルが体にかかると火傷をするおそ
れがあります。
- エンジンが温かいうちに抜くと容易に抜く
ことができます。
- オイルの交換・点検作業後はドレンプラグ
や給油口の蓋は確実に締付けてください。

3. 各部オイルの点検・ 交換のしかた

古くなったオイルは、機械の性能を落とすだけ
ではなく、故障の原因にもなります。
定期的に古いオイルを抜き取り、新しいオイルを規
定量給油してください。

エンジンオイル

点検

給油口の蓋を外して、検油ゲージの先端をきれい
にふき、ねじ込まない状態で差込み、再び抜いて
検油ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調
べます。

走行ミッションオイル

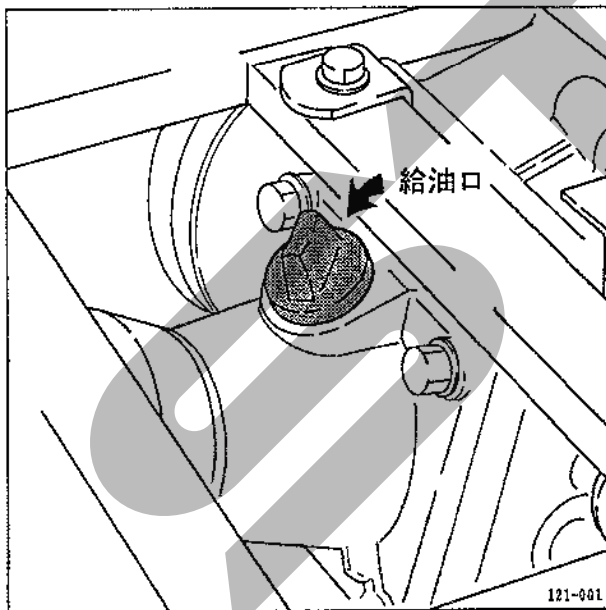
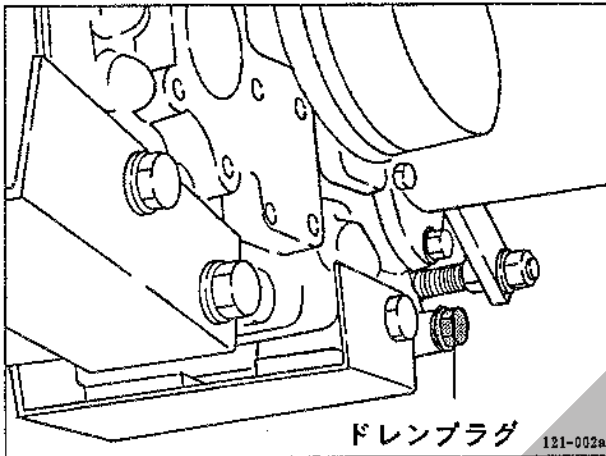
点検

油もれのないことを調べてください。

交換

走行ミッションケース下部にあるドレンプラグを外して、汚れたオイルを流し出します。

給油は、規定量 (2.5ℓ) 入れてください。



取扱い上の注意

- 走行ミッションが温かいうちに抜くと容易に抜くことができます。

4. エンジン始動・停止のしかた

⚠警告

エンジン始動時は、必ず走行クラッチレバーを「切」位置にし、駐車ブレーキレバーを「ブレーキ」位置にして周囲の安全を確認し、人や動物を近づけないでください。

守らないと、傷害事故をおこすおそれがあります。

締切った室内では、エンジンの始動および暖機運転はしないでください。エンジンは風通しのよい屋外で始動してください。やむをえず屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。守らないと、排気ガスによる中毒をおこし、死亡事故をまねくおそれがあります。

⚠注意

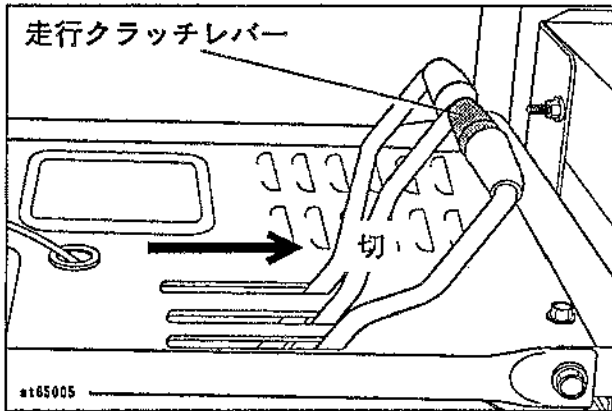
機械を使う前と後には、必ず点検、整備をしてください。特に、走行クラッチレバー・駐車ブレーキレバーなどの操縦装置は、確実に作動するように点検、整備をしてください。守らないと、傷害事故をおこしたり、機械の故障をまねくおそれがあります。

暖機運転中は、駐車ブレーキをかけてください。守らないと、何らかの原因で本機が走りだし、事故をおこすおそれがあります。

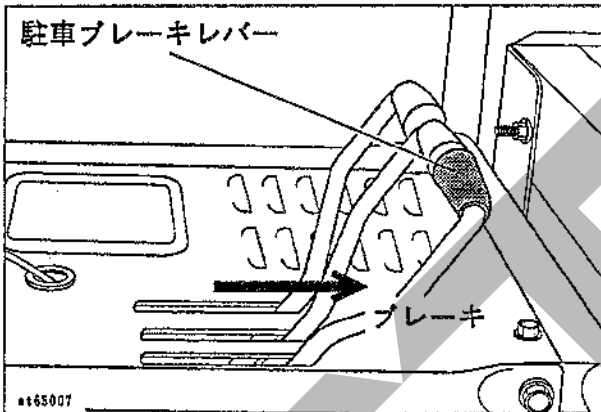
運転中、エンジン・マフラーは、高温になりますのでさわらないでください。また、エンジンが停止しても、すぐに手を触れないでください。エンジンやマフラーなどの高温部で火傷のおそれがあります。

エンジン始動のしかた

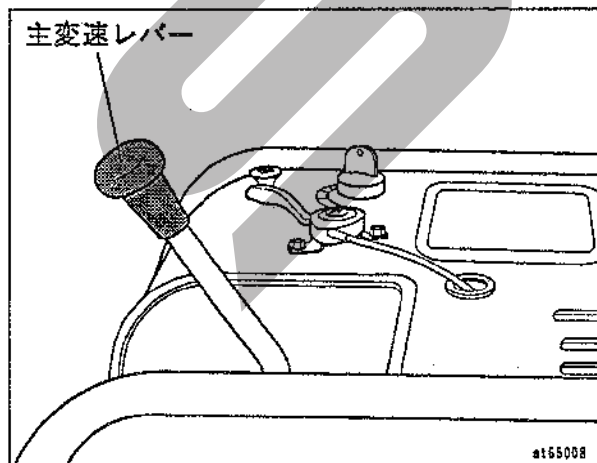
走行クラッチレバーを「切」位置にします。



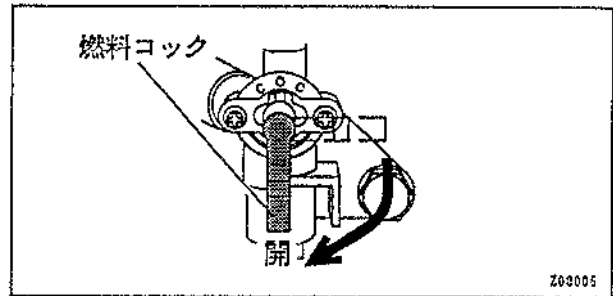
駐車ブレーキレバーを「ブレーキ」位置にします。



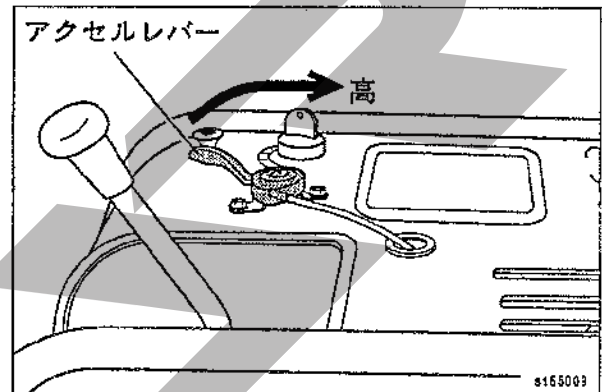
主変速レバーを「N (中立)」位置にします。



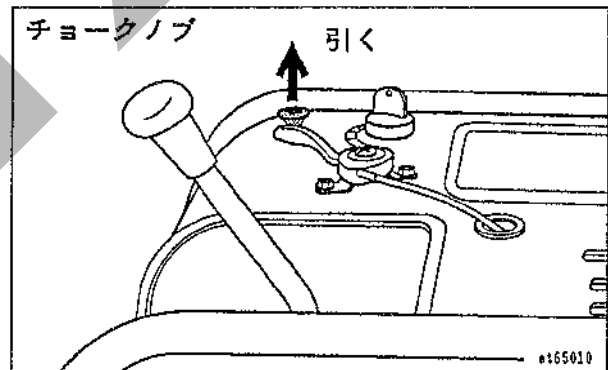
燃料コックを「開」にします。



アクセルレバーを「高」位置にします。

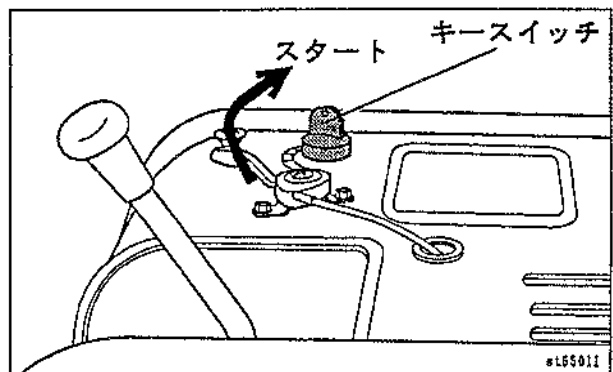


チョークノブを引きます。



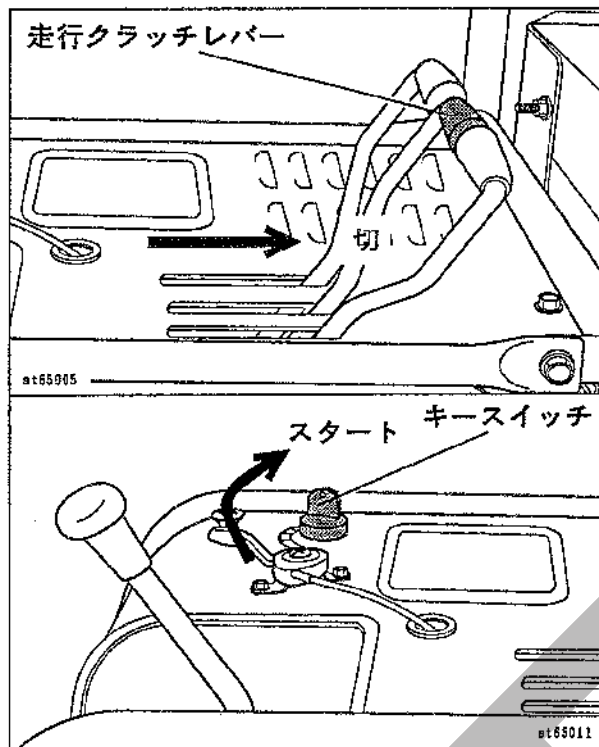
エンジンが暖まっているときは、チョークノブを引かないでください。

キースイッチを「スタート」位置まで回します。



運転と作業のしかた - 安全事項を必ず守って、上手に作業してください。

走行クラッチレバーが「切」位置にないと始動安全スイッチが働かず、セルモータが回りません。走行クラッチレバーは確実に「切」位置にしてエンジンをスタートしてください。



エンジンが始動したら、エンジン回転の調子を見ながら、チョークノブを徐々に戻します。最後には必ず一杯戻してください。

エンジン始動後約5分間は、負荷をかけずにエンジンをかけたままにしておいてください。
(エンジンの暖機運転)

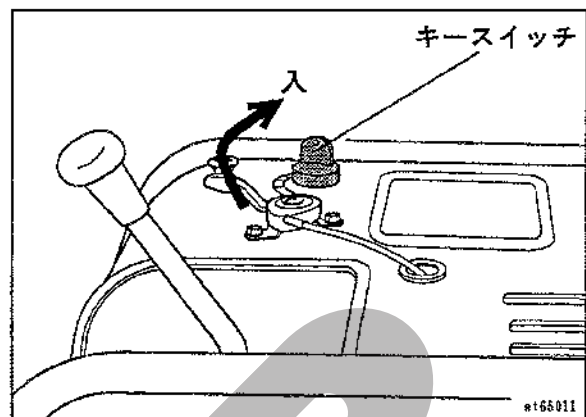
取扱い上の注意

- 約10秒以上セルモータを使ってもエンジンがかからない場合、いったんキースイッチを切り、1分以上バッテリーを休ませてから、再び始動させてください。
- エンジン回転中は、絶対にキースイッチを「スタート」位置にしないでください。

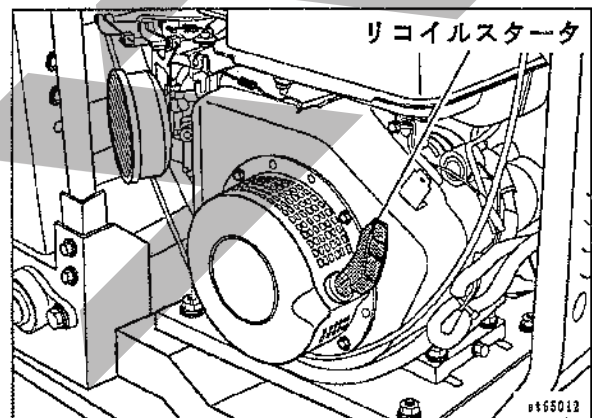
バッテリーの容量不足でセルスタートができない場合は、次の要領で始動してください。

前ページの「エンジン始動のしかた」の ~ までの操作をします。

キースイッチを「入」位置にします。



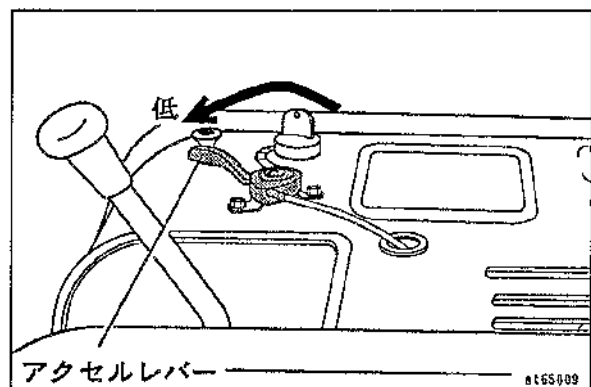
リコイルスタータを勢いよく引っ張ります。



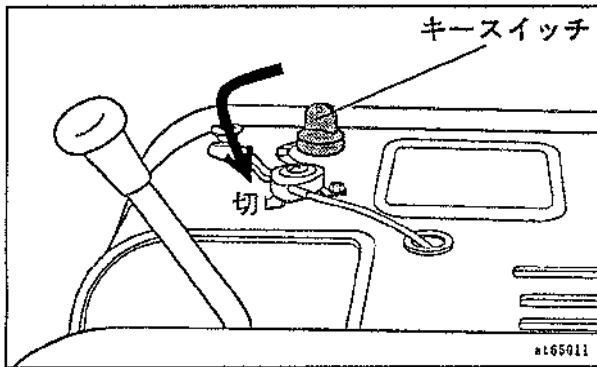
エンジンが始動したら、エンジン回転の調子を見ながら、チョークノブを徐々に戻します。最後には必ず一杯戻してください。

エンジンの停止のしかた

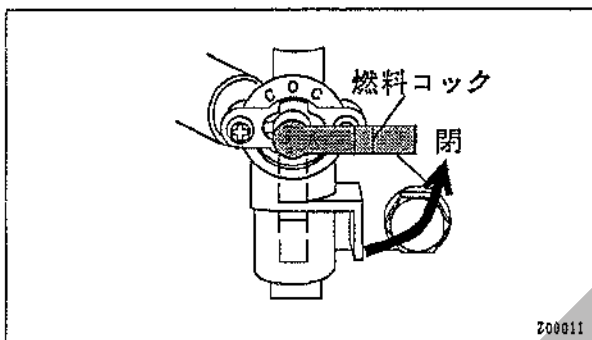
アクセルレバーを「低」位置にします。



キースイッチを「切」位置にしエンジンを停止します。



燃料コックを「閉」にします。



5. 発進・旋回・変速・停止のしかた

⚠危険

発進・停止はゆっくりと行ってください。旋回をするときは、十分に速度を落としてください。また坂道・路肩・凸凹道やカーブの多い場所では、十分に速度を落としてください。思わぬ事故の原因となります。

急傾斜地での斜め走行はしないでください。横転して事故をまねくおそれがあります。

後進時は低速にし、後方に充分注意してください。転倒などにより、けがのおそれがあります。

⚠警告

発進するときは、各レバーの位置と周囲の安全を確かめて発進してください。さもないと、思わぬ事故、けがをまねくおそれがあります。

本機を使用しないときは、必ずキーを抜いて安全な場所にキーを保管してください。守らないと児童などが操作し事故をおこすおそれがあります。

駐車ブレーキレバーを「ブレーキ」位置のまま走行クラッチを連続して入れないでください。ブレーキが発熱したり、摩耗して効かなくなり暴走して大変危険です。

急な下り坂では、サイドクラッチレバーの操作をしないでください。思わぬ方向に機械が旋回して転落などの事故をまねくおそれがあります。

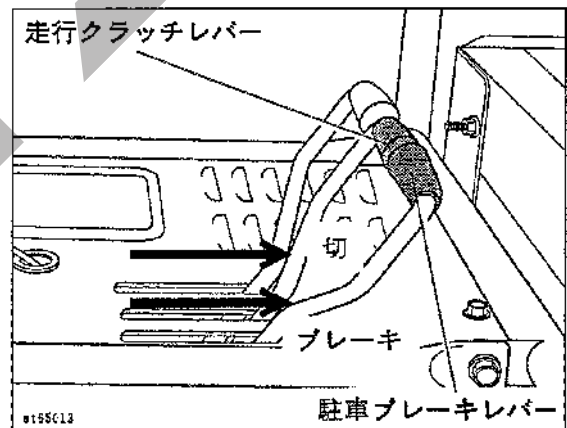
⚠注意

小型特殊自動車の型式認定を受けていません。法令により公道走行は禁止されていますので、しないでください。

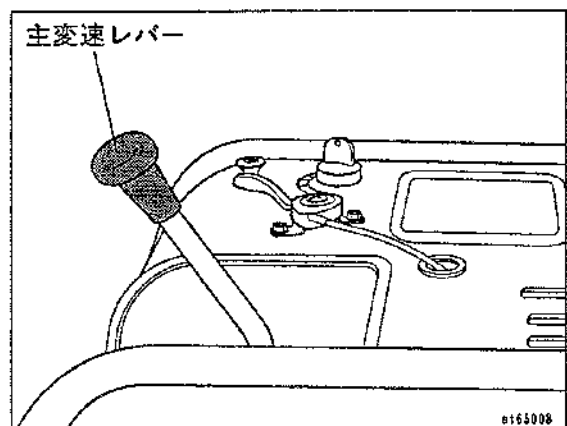
本機から離れるときには、平坦で安定した場所に置き、必ず駐車ブレーキレバーを「ブレーキ」位置にし、エンジンを止め、歯止めをしてください。守らないと本機が動きだし、事故をおこすおそれがあります。

発進のしかた

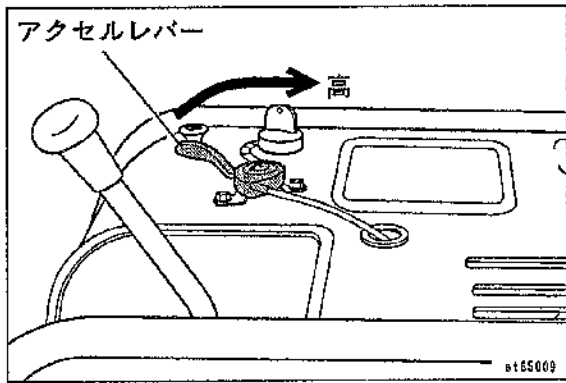
走行クラッチレバーを「切」位置にし、駐車ブレーキレバーを「ブレーキ」位置にします。



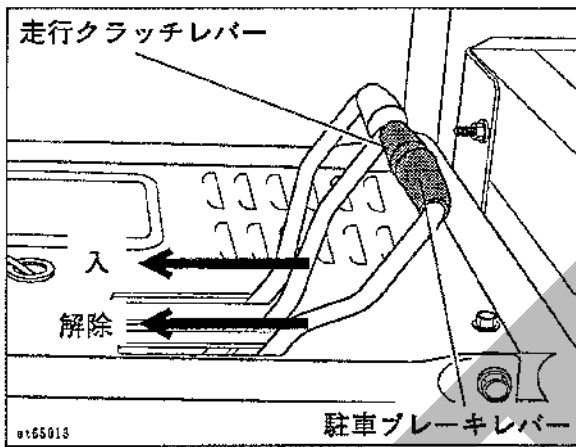
主変速レバーで、前進または後進の希望の位置を選びます。



アクセルレバーでエンジンの回転を少し上げます。

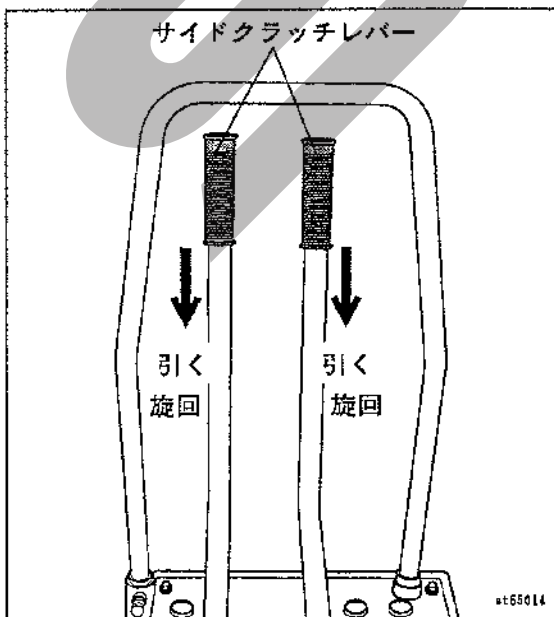


駐車ブレーキレバーを「解除」位置にし、走行クラッチレバーを「入」位置にして発進します。



旋回のしかた

旋回しようとする側の安全を確認してから、旋回したい方のサイドクラッチレバーを引くと旋回します。旋回後は、サイドクラッチレバーを戻します。



変速のしかた

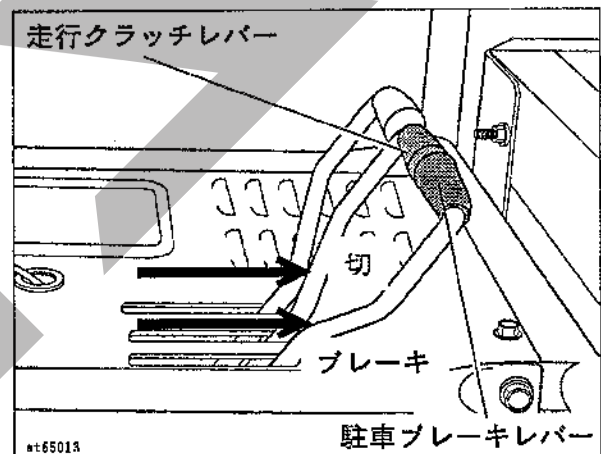
警告

主変速レバーを操作するときは、必ず走行クラッチレバーを「切」位置にし、駐車ブレーキレバーを「ブレーキ」位置にして操作してください。思わぬ方向に動きだし重大な傷害、機械の破損をまねくおそれがあります。

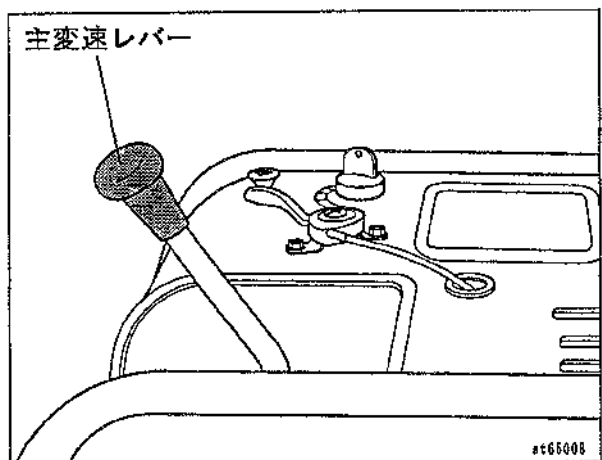
急坂道やあゆみ板の上では、「前進1」、「後進1」の低い速度で走行し、途中での変速はしないでください。暴走して事故をおこすおそれがあります。

変速する場合は、次の要領で行ってください。

走行クラッチレバーを「切」位置にし、駐車ブレーキレバーを「ブレーキ」位置にします。

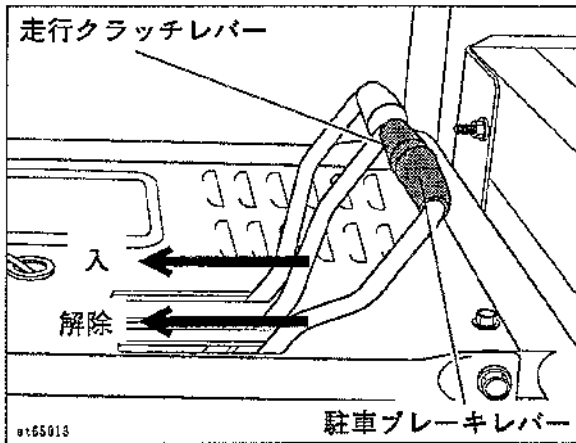


主変速レバーを操作し、希望の変速に入れ換えます。



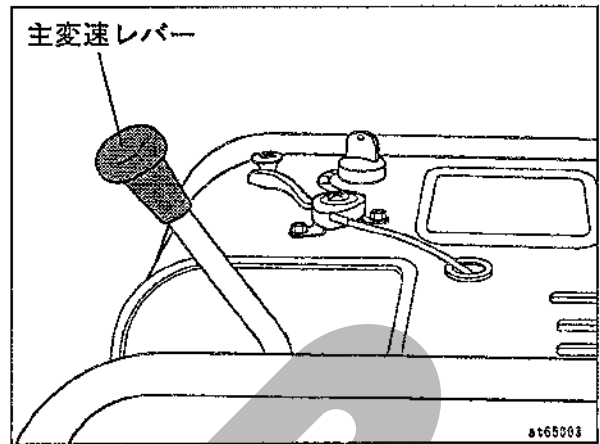
運転と作業のしかた - 安全事項を必ず守って、上手に作業してください。

駐車ブレーキバーを「解除」位置にし、走行クラッチレバーを「入」位置にして発進します。

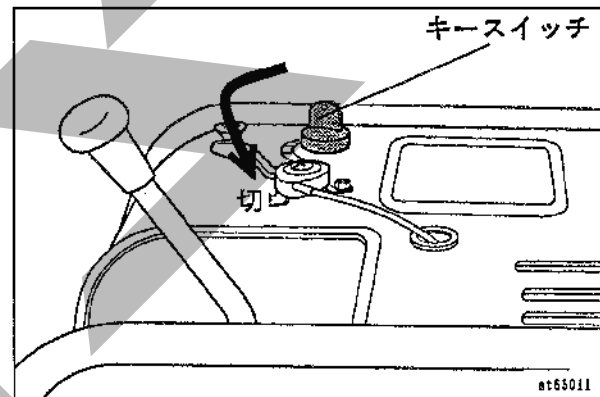


走行中の変速は、機械の破損の原因になりますのでしないでください。

主変速レバーを「N（中立）」位置にします。

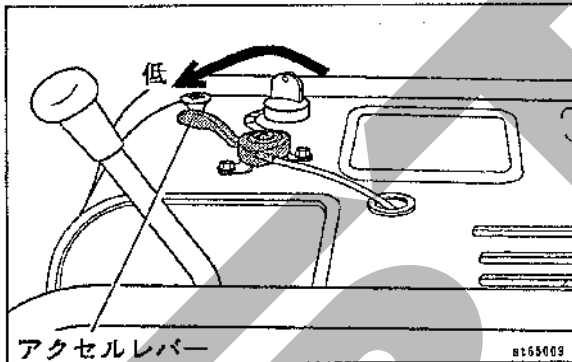


キースイッチを「切」位置にし、エンジンを停止します。

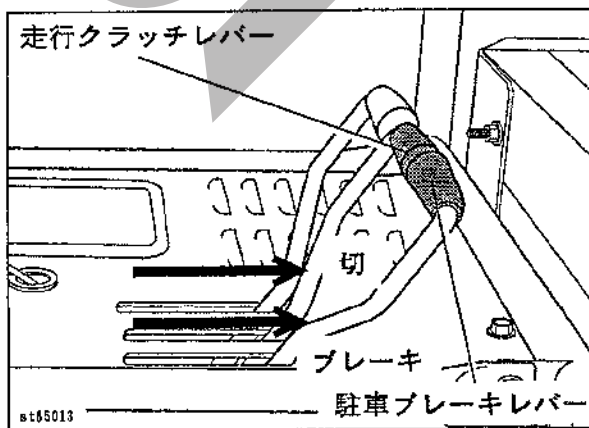


停止のしかた

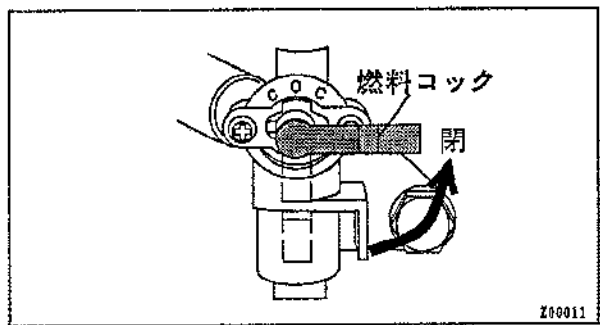
アクセルレバーを「低」位置にします。



走行クラッチレバーを「切」位置にして、駐車ブレーキバーを「ブレーキ」位置にすれば機体は停止します。



燃料コックを「閉」にします。



駐車のしかた

⚠️注意

駐車するときは、平坦で堅固な場所に必ず駐車ブレーキレバーを「ブレーキ」位置にして止めてください。やむを得ず傾斜地に置く場合は、必ず歯止めをしてください。

6. 坂道での運転のしかた

警告

あらかじめ適正な速度段を選択し、坂道を走行中は、変速をしないでください。

坂道では、主変速レバーを「N（中立）」位置にしないでください。

坂道では、駐車しないでください。守らないと本機が坂をすべり落ちて、事故をおこすおそれがあります。

坂道では、スピードに充分注意して、ゆっくりと走行し、急な下り坂では、エンジンプレーキを活用してください。

上り坂で発進する場合は、遅い変速位置に入れ、エンジン回転を落としてゆっくり発進してください。急発進すると、前側がはね上がり大変危険です。

変速は、坂を登りつめてから希望する変速位置に入れ直してください。坂の途中で停車する場合は、駐車ブレーキレバーを「ブレーキ」位置にしてください

トラックはエンジンを止め、動かないようにサイドブレーキをかけ、「歯止め」をしてください。

使用するあゆみ板は、幅・長さ・強度が充分あるスリップしないものを選び、あゆみ板がはずれないように、フックをトラックの荷台にしっかりかけてください。

トラックへの積込み、積降ろしは、あゆみ板の上で進路変更をすることがないように進路を定めて最低速度で行ってください。進路を変えるための、サイドクラッチレバーの操作は絶対にしないでください。守らないと転落などの事故をおこすおそれがあります。

誘導者は、機械の直前に立たないでください。機体が不意に動いたときに思わぬ事故やけがをまねくおそれがあります。

積込みは「前進1」、積降ろしは「後進1」の低い速度で行ってください。さらに、アクセルレバーは「低」位置にし、エンジンプレーキを充分きかせて、ゆっくりと行ってください。守らないと転倒・転落によるけがをまねくおそれがあります。

本機があゆみ板とトラック等の継ぎ目を越えるときは、急に重心が変わりますので、十分に注意してください。転倒・転落による事故やけがをまねくおそれがあります。

トラックなどに積んで移動するときは、充分強度のあるロープを使用し、確実に固定してください。さらに「歯止め」をしてください。さもないと、機械の転落や、運転席への突込みによる重大な事故やけがをまねくおそれがあります。

周囲に危険物のない平坦な場所を選びます。

基準に合ったあゆみ板を用意します。

《あゆみ板の基準》

あゆみ板は基準に合った、充分な強度のあるものをご使用ください。

- 長さ ... トラックの荷台高さの4倍以上。
- 幅 ... 本機のクローラ幅に合ったもの。
- 強度 ... 本機の重量に充分耐えられるもの。
- 表面 ... すべらないように処理してあるもの。

あゆみ板のフックを、トラック荷台と段差のないように確実に掛けてください。

左右のクローラがあゆみ板の中央に位置するように、本機をセットしてから積込み、積降ろしを行ってください。

積込みの場合は「前進1」で、積降ろしの場合は「後進1」の低い速度で行ってください。

7. 圃場への出入りのしかた

警告

圃場への出入り、あぜ越えや段差を乗り越える時は、充分強度のあるあゆみ板を使用し、荷物は積まないで、重心を低くしてください。

急な傾斜を登る場合は、「前進1」で、降りる場合は「後進1」の低い速度で行ってください。

圃場への出入りは、圃場にたいして直角に出入りしてください。

8. トラックへの積込み・積降ろしのしかた

警告

積込み、積降ろしの場合は、交通の安全が確保でき、平坦で安定した場所を選んでください。さもないと、思わぬ事故やけがをまねくおそれがあります。

9. 本製品の使用目的

堆肥や鶏糞の散布作業に使用してください。
その他の用途には使用しないでください。

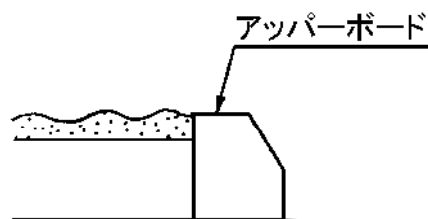
取扱い上の注意

堆肥や鶏糞以外の散布をすると、本機が破損する事があります。本製品の使用目的以外での使用はやめてください。

また、堆肥や鶏糞の中に石・木片・氷塊などが混入していると、機体の破損原因となる事があります。

混入しないように日常から管理してください。散布時に混入が見つかったら、取除いてから作業してください。

2. 積み込み高さは、アッパーボードまでを目安として、できる限り均一にしてください。



取扱い上の注意

積み込み過ぎや不均一な積み込みで散布すると、ピータ部で詰まりが起きたり、散布ムラの原因になる事があります。

また、機械の破損原因になる事があります。適正な積み込み高さにして、さらに均一に積み込んで作業することにより、トラブルのない順調な作業ができます。

10. 最大積載量

最大積載量

600kg

⚠️注意

過積載あるいは片荷積載をすると、回転時や傾斜地での作業時、本機が転倒し、ケガをする事があります。指定された積載量あるいは積載高さ以上の積載はしないでください。

ほぼ平坦になるように積載してください。

11. 堆肥・鶏糞の積み込み方

1. 荷台の前方から後方に向かって積み込みをしてください。

取扱い上の注意

前方から後方に向かって積み込みをすることにより散布時に堆肥や鶏糞がほぐれやすく、機体に無理がかかりません。

積み込みの順序を、後ろに積んだり、前に積んだりなどのようにバラバラに行くと、無理な力がかかったり、散布ムラの原因になる事があます。

12. 床コンベヤの変速操作

コンベヤ速度は3段階に変速できます。

チェンジレバーを希望変速位置溝までスライドさせ、溝にはめこむと、変速操作は完了します。尚、チェンジレバーを「N」(中立)にするとコンベヤのみ停止します。

ピータは停止しません。

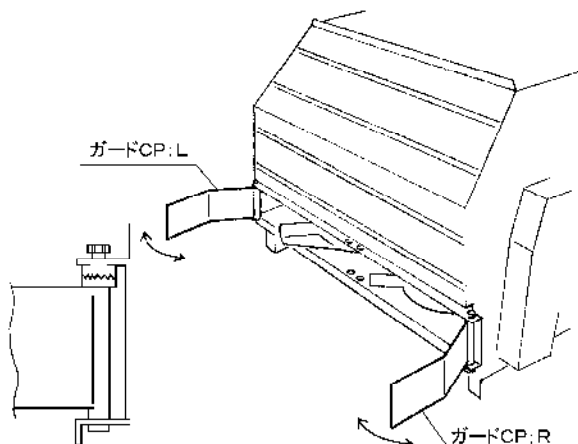
13. 床コンベヤの変速段と散布量

床コンベヤ変速段と散布量の関係は下記の通りです。堆肥の性状と希望散布量から床コンベヤ変速段と本機の車速を決め作業してください。

コンベヤ速度		堆肥(600kg/m ³)	
変速段	速度 (m/分)	車 速	
		2km/hr	3km/hr
1速	0.9	1.4 (ton/10a)	0.9 (ton/10a)
2速	1.8	2.8	1.9
3速	2.7	4.3	2.8

14. 規制板の調整

規制板は作業内容に応じて使用してください。



(1) 散布巾の調節

散布巾5～6mの規制板標準位置は上図の通りです。散布巾は、堆肥の種類や水分によって異なります。

ニギリを緩めると、ガードCP;L, Rの角度を調整できます。希望の散布巾になる位置にセットしてください。ニギリを締めてガードCP;L, Rを固定してください。

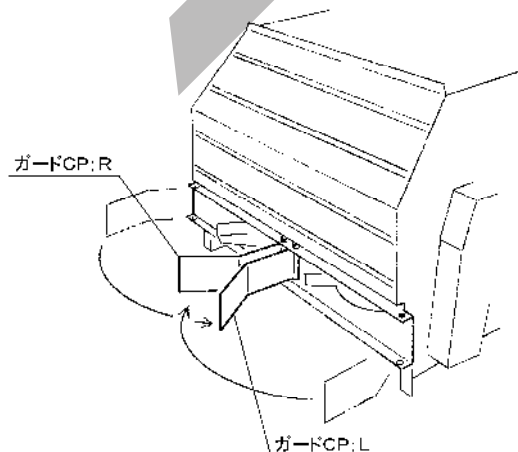
規制板を使用しない作業ではガードCP;L, Rを外してください。

取扱い上の注意

石等の異物混じりの堆肥では、規制板を使用しないでください。

(2) 両サイド散布の調節

両サイド散布の規制板標準位置は、次の通りです。ガードCP;L, Rを中央の穴に移し変えてください。希望の条間になる位置にセットしてください。



15. 散布作業のしかた

⚠危険

運転中又は回転中、ピータに接触すると巻き込まれ、ケガをする事があります。

周囲に人を近づけないでください。

堆肥や鶏糞の中に、石や木片、氷塊が混入していると、ピータにより飛散し運転者や周囲の人がケガをする事があります。

混入しないようにしてください。

運転中又は回転中、ピータによる飛散物によりケガをする事があります。

周囲に人を近づけないでください。

⚠警告

傾斜地で速度を出しすぎると、暴走事故を起こす事があります。低速で作業してください。

下り作業をする時は、坂の途中で変速すると、暴走する原因となります。坂の前で低速に変速して、ゆっくりとおりにしてください。

⚠注意

運転中又は回転中、カバーを開けると回転物に巻き込まれ、ケガをする事があります。

カバーを開けないでください。

取扱い上の注意

堆肥の積み方や種類によって前方に飛散する場合があります。飛散する場合はPTO回転数を低速にして作業してください。

- (1) 床コンベヤ変速を希望する散布量から選択して、セットしてください。
- (2) 希望する散布量から車速に見合った変速位置にセットしてください。
- (3) 走行クラッチを切った状態で、エンジンを低速で回転させ、PTOレバーを入れてください。
- (4) アクセルレバーを「高」位置にセットします。
- (5) ピータから堆肥が散布され始めたら、走行クラッチを接続し散布作業を始めてください。

作業後の手入れについて

⚠危険

燃料を抜くときは、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。エンジンを止め、エンジン、マフラーなどの高温部が冷えてから必ず燃料受けを用意し、燃料をこぼさないようにしてください。燃料などに引火し火災のおそれがあります。

シートをかける場合は、エンジンを停止し、エンジンやマフラーが充分冷えたことを確認してからかけてください。守らないと、火災をおこすおそれがあります。

運転中や回転中、ピータに接触すると巻き込まれ、けがをする事があります。ピータを回転させての、荷台内の清掃は危険です。やめてください。

⚠警告

お手入れは、平坦な安定した場所で行ってください。さもないと機械が転倒して、思わぬけがをするおそれがあります。

格納時は、平坦で安定した場所に置いてください。やむを得ず傾斜地に置く場合は、必ず歯止めをしてください。本機が自然に動いて事故になります。

⚠注意

お手入れは、エンジンを停止させて行ってください。守らないと思わぬけがを負うおそれがあります。また、高温部分が冷えてから行ってください。高温部に触れると、火傷をするおそれがあります。

近くに燃えやすいものがあれば、取除いてください。火災の原因になります。

動力を切らずに、回転部・可動部の付着物の除去作業などを行うと、機械に巻き込まれ、ケガをする事があります。PTOを切り、エンジンをとめ、回転物や可動物がとまっている事を確かめて行ってください。

1. 作業後の手入れ

機械の上にかかっている堆肥等は、ほ場の中できれいに取除いてください。特に、回転部に巻き付いたワラやトワインなどは、シール部品、軸受部品などを傷つけますので、完全に取除いてください。

その日の内に水洗いし、水洗い後は良く水分をふき取って、各回転・摺動部に油をたっぷりさしてください。

ボルト、ナット、ピン類の緩み、脱落がないか、又、破損部品がないか確認してください。異常があれば、ボルトの増締め、部品の交換をしてください。

エアクリーナについての土やホコリを落とします。リコイルスタータ部の網目を点検し、わらくず、草などは必ず取除いてください。エンジン、マフラー等にわらくずや枯草などが堆積したまま運転しますと火災の原因になります。

水洗いをするときは、エアクリーナの吸気口に水が入らないようにしてください。

電装品には、水をかけないようにしてください。故障の原因となります。

2. 長期間使用しない場合の手入れ

⚠警告

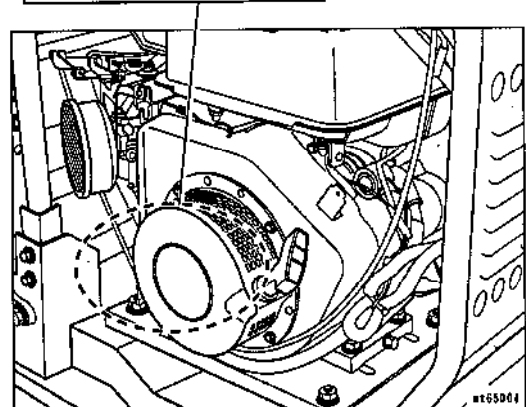
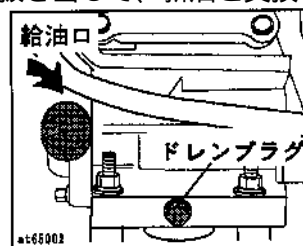
格納する場合は、バッテリーを取外し、キーを抜取り保管してください。守らないと事故をおこすおそれがあります。

⚠注意

格納する場合は、走行クラッチレバーを「切」位置にしてください。使用時にクラッチが切れなくなり、事故をおこすおそれがあります。

エンジンを低速で運転（約5分間）し、停止させます。

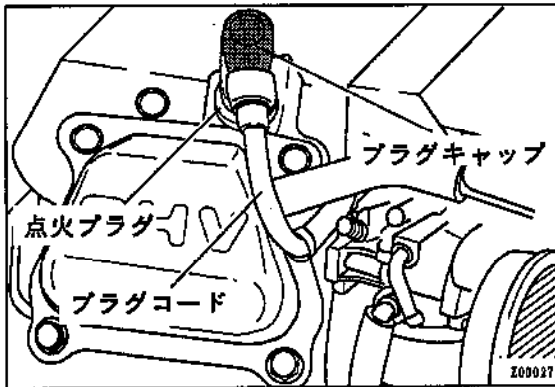
エンジンが温かいうちにエンジンオイルを抜き出して、新油と交換してください。



エンジンが熱い間は作業しないでください。

作業後の手入れについて - 正しい手入れを行ってください。

点火プラグを外し、点火プラグの穴からエンジンオイルを 10cc 位入れます。



リコイルスタータを 2 ~ 3 回引きます。
(エンジンを始動させてはいけません。)
再び点火プラグを取り付けて、リコイルスタータを軽く引き、重たくなった(圧縮のある)所で止めておきます。

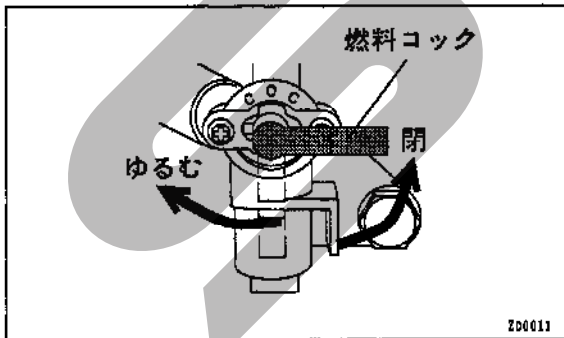
圧縮のある位置では、吸排気弁が閉じており、湿気によるエンジン内部の発錆を防ぎます。

プラグコード・プラグキャップは、確実に差し込んでください。

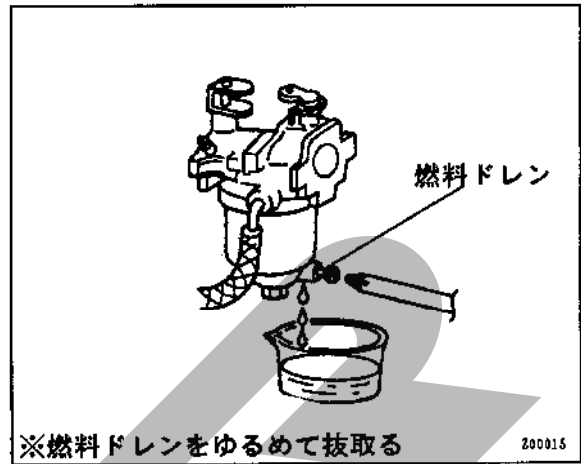
燃料タンク・キャブレタ・燃料こし器の中の燃料は抜取っておいてください。

燃料抜きの手入れ

燃料タンク内の燃料を抜きます。
燃料コックを「閉」にします。



燃料こし器内の燃料を抜きます。
キャブレタ下部の燃料ドレンをゆるめて抜取ってください。



エンジン以外の手入れ

機体各部の清掃をしてください。
摩耗した部品、破損した部品は交換してください。
乾燥した風通しの良い所で、クローラの下には板を敷いてください。
外部の錆びやすい部分に、防錆油または、エンジンオイル・グリースを塗ってください。
塗装損傷部には、補修塗装または油を塗布し、錆の発生を防いでください。
バッテリーを完全充電し本機から取り外し、風通しの良い冷暗所に保管してください。
走行クラッチレバーは、Vベルトの変形を防止するため、「切」位置にしてください。

取扱い上の注意

- バッテリーは、使わなくても自然放電します。1ヶ月に1度は充電器で完全充電してください。

手入れと点検・調整

⚠危険

燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明は、絶対しないでください。

エンジンの回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油はしないでください。

⚠警告

点検、整備は、交通の危険がなく、本機が倒れたり動いたりしない平坦な安定した場所で、クローラに歯止めをして行ってください。守らないと、転倒などの事故をおこすおそれがあります。

⚠注意

1年毎に定期点検、整備を受け、各部の保守をしてください。特に燃料パイプは2年毎に交換し、電気配線は毎年点検してください。守らないと、整備不良による事故や機械の故障をまねくおそれがあります。

点検、整備、修理をするときは、必ずエンジンを停止してください。守らないと思わぬけがを負うおそれがあります。また高温部が冷えてから行ってください。火傷をするおそれがあります。

点検、整備などで取外したカバー類を外したままでは、衣類などが巻込まれて危険ですので、点検後の作動確認は、必ずカバーを取付けて行ってください。

部品の交換、及び草・わらくずなどのゴミを取るときはエンジンが冷えてから行ってください。

定期点検や整備は、農閑期に行いますと農繁期に機械の性能が充分発揮され、安全で快適な作業が行えます。機械の整備不良による事故などを未然に防止するために、1年ごとに販売店・整備工場で定期点検、整備を受け、各部の安全を確認してください。特に燃料パイプやゴムホース類は2年ごとに交換し、電気配線は、毎年点検するようにして、常に機械を最良の状態安心して作業が行えるようにしてください。

1. 定期点検一覧表

点検・調整箇所	規定量	内容	点検・交換時期	参照ページ
エンジンオイル	1.2ℓ	エンジンオイル SC級以上 ●夏季(20 以上)... SAE30 ●秋・春季(10 ~ 20) ...SAE20 ●冬季(10 以下) ...SAE10W - 30 交換	1回目:20時間目 2回目以降: 50時間毎	15、31
走行ミッションオイル	2.5ℓ	ギヤ - オイル90番 交換	1回目:50時間目 2回目以降: 100時間毎	16、31
エアクリーナ		白灯油で洗浄または交換	30時間毎洗浄 汚れているときは都度	32
燃料こし器		洗浄	都度	32
燃料パイプ		交換、結合部の点検	2年毎に交換	32
電気配線		被覆のはがれや傷を点検	毎年点検	32
点火プラグ		清掃	200時間毎	33
バッテリー		点検・蒸留水補給		33
クローラ	10mm	たわみ量の調節		34
サイドクラッチレバー	15 ~ 20mm	スキマ		35
駐車ブレーキレバー	7 ~ 10mm	遊び量	販売店へご相談 ください	35
走行クラッチレバー		確実に「入」位置、「切」位置 に入るか点検		36
転輪取付けボルト		増締め		
エンジン取付けボルト		増締め		

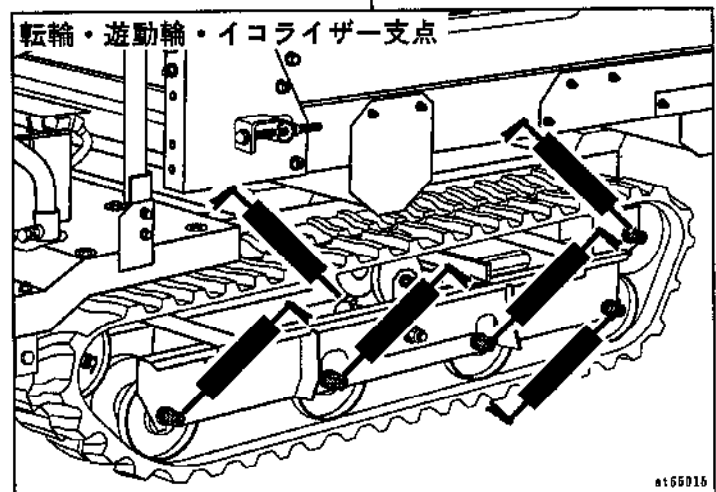
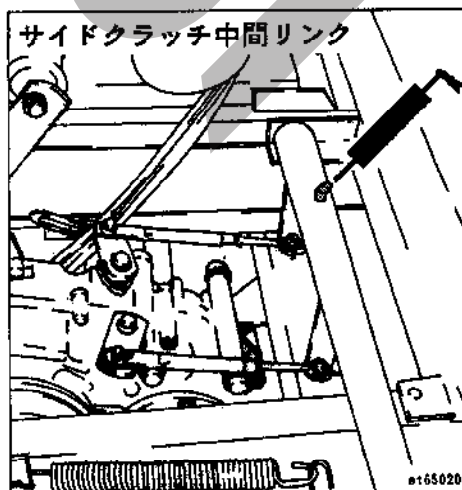
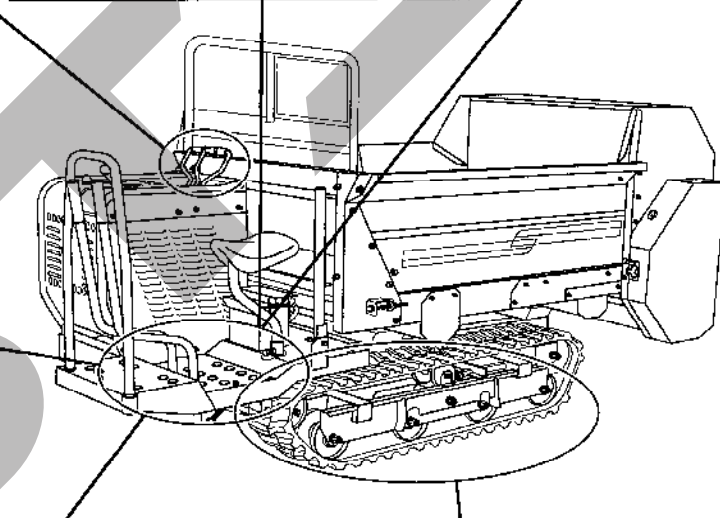
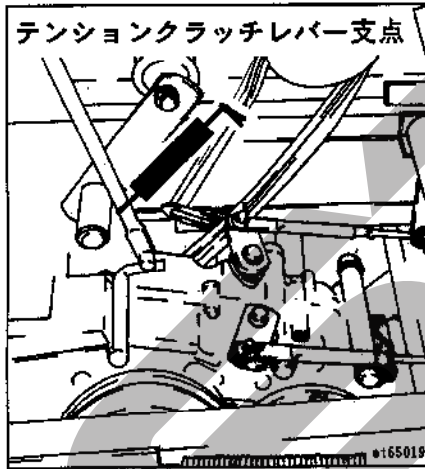
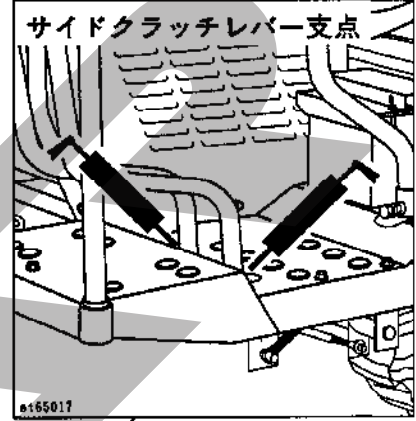
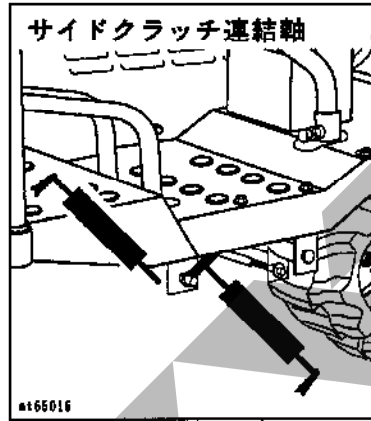
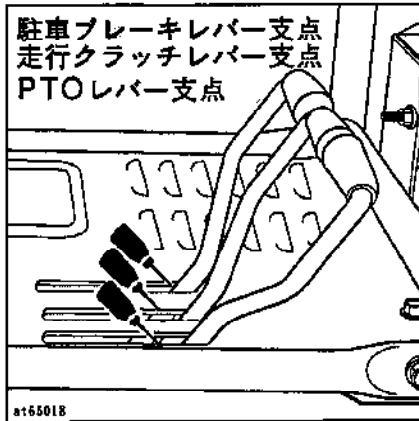
時 間	チェック項目	処 置
新品使用1時間	全ボルト・ナットのゆるみ	増し締め
使 用 毎	機械の清掃 ピータブレードの摩耗 ローラチェーンのテンション 安全カバーの損傷 床コンベヤチェーンのテンション 各部の損傷、部品脱落 各部のボルト・ナットのゆるみ 各部の給油	早めの部品交換 「ローラチェーンのテンション調整のしかた」に基づき調整 (38ページ参照) 部品交換 「床コンベヤチェーンのテンション調整のしかた」に基づき調整 (38ページ参照) 部品交換、取付 増し締め 「各部注油・グリースアップのしかた」に基づき給油 (29ページ参照)
シーズン終了後	機械の清掃 ローラチェーンのテンション 各部の損傷、部品脱落 コンベヤチェーンの伸び 各部のボルト・ナットのゆるみ 各部の給油 塗装損傷部	「ローラチェーンのテンション調整のしかた」に基づき調整 (38ページ参照) 部品交換・取付 「床コンベヤチェーンのテンション調整のしかた」に基づき調整または全数交換 (38ページ参照) 全ボルト・ナットの増し締め 「各部注油・グリースアップのしかた」に基づき給油 (29ページ参照) 塗装または油塗布

2. 各部注油・グリースアップのしかた

▲注意

記載されている以外にも、摩擦部や摺動部には必ず注油・グリースアップをしてください。
作動不良をまねいて物損・傷害をおこすおそれがあります。
定期的に油さし・グリースポンプで確実に注油・グリースアップしてください。

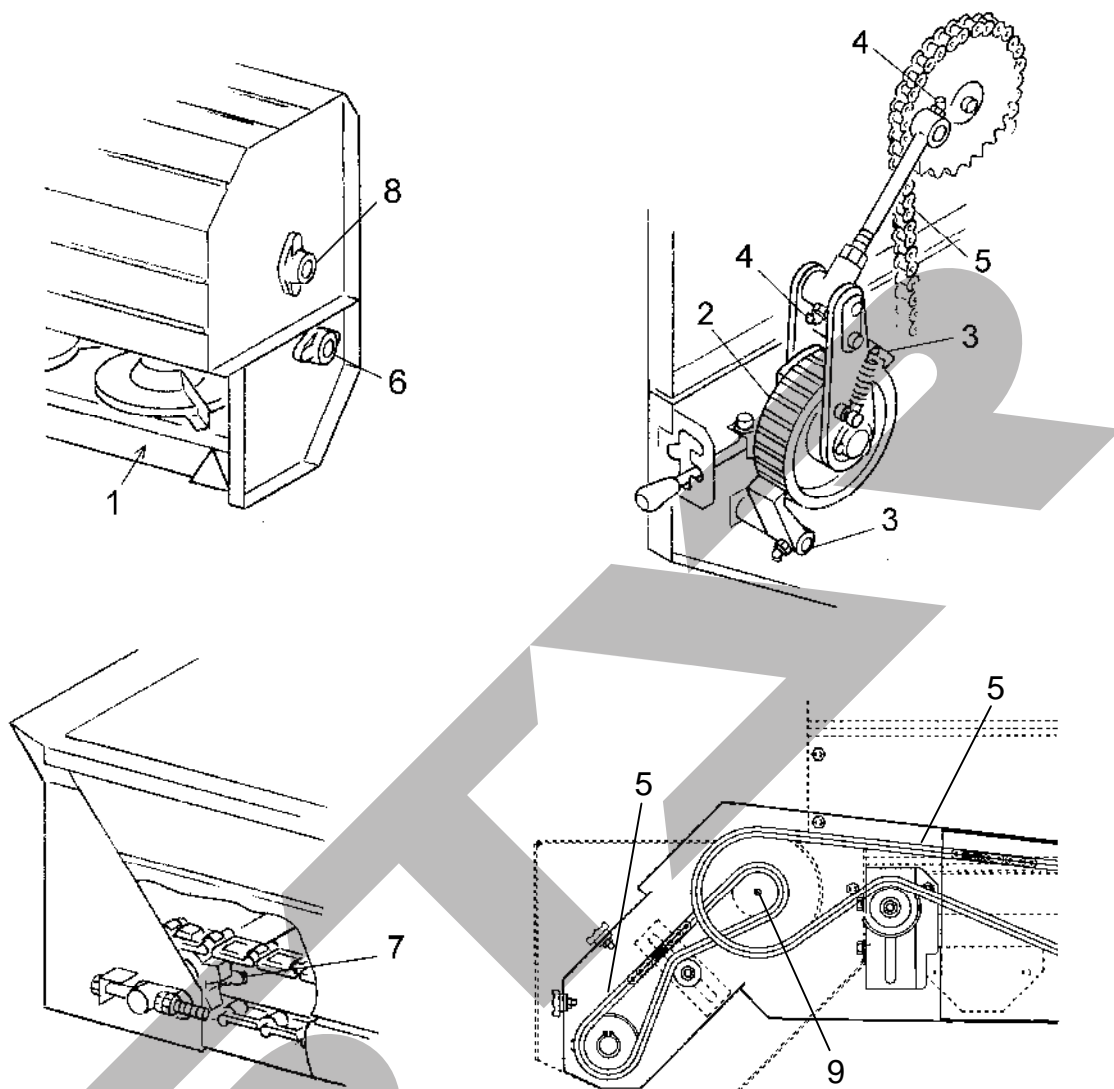
<凡例>  注油位置  グリースアップ位置



手入れと点検・調整 - 定期的に正しい点検をしてください。

給油・塗布するオイルは清浄なものを使用してください。

グリースを給脂する場合、適量とは古いグリースが排出され、新しいグリースが出るまでです。



No.	給油場所	箇所	潤滑油の種類	交換時間	給油量	備考
1	ギヤケース	3	集中給油グリース 4種；2号	使用毎	適量	給脂
2	ラチェットホイール	1	〃	〃	〃	〃
3	ノッチ	2	〃	〃	〃	〃
4	コネクティングロッド	2	〃	〃	〃	〃
5	ローラチェーン	3	〃	〃	〃	〃
6	コンベヤ軸々受	2	〃	〃	〃	〃
7	コンベヤ従動スプロケット	2	〃	〃	〃	〃
8	ビータ軸々受	2	〃	〃	〃	〃
9	スプロケット	1	〃	〃	〃	〃

IDEMITSU「ダフニー エポネックスSR No.2」又は相当品をお使いください。

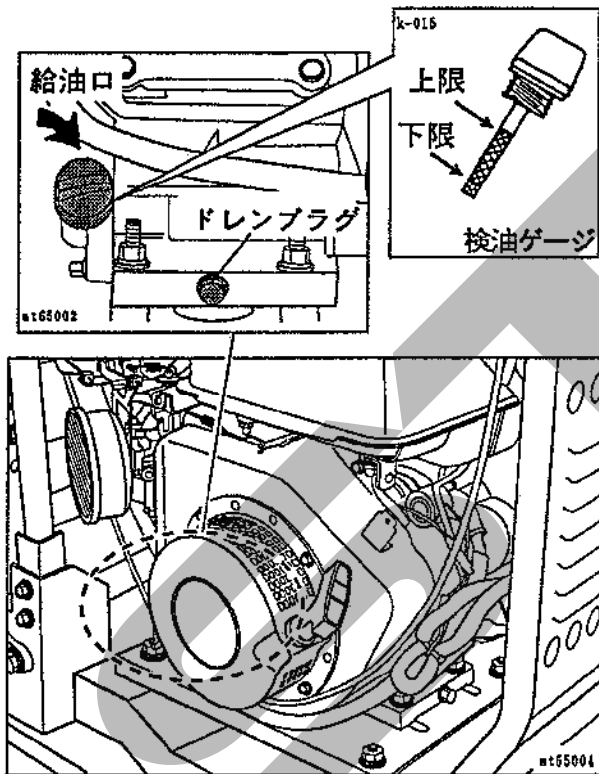
3. 各部オイルの点検・ 交換のしかた

古くなったオイルは、機械の性能を落すだけでなく、故障の原因にもなります。定期的に古いオイルを抜取り、新しいオイルを規定量給油してください。

エンジンオイル

点検

給油口の蓋を外して、検油ゲージの先端をきれいにふき、ねじ込まない状態で差込み、再び抜いて検油ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。



交換

エンジンクランク室の給油口を取外してから、ドレンプラグを外して汚れたオイルを流し出します。給油は、給油口より検油ゲージの規定量(1.2ℓ)まで入れてください。

取扱い上の注意

- オイルの量はエンジンを停止して調べてください。
- 給油するときは、本機を必ず水平にして行ってください。

- 給油するオイルは、必ず規定のオイルを使用してください。
- エンジンが熱いうちはおこなわないでください。
- 熱いオイルが体にかかると火傷をするおそれがあります。
- エンジンが温かいうちに抜くと、容易に抜くことができます
- オイルの交換・点検作業後はドレンプラグや給油口の蓋は確実に締付けてください。

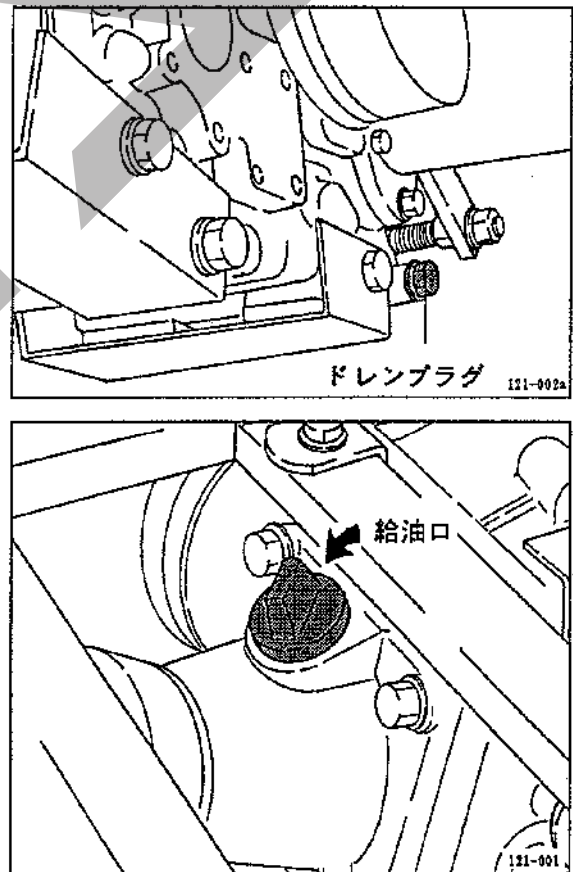
走行ミッションオイル

点検

油もれのないことを調べてください。

交換

走行ミッションケース下部にあるドレンプラグを外して、汚れたオイルを流し出します。給油は、規定量(2.5ℓ)入れてください。



取扱い上の注意

- 走行ミッションが温かいうちに抜くと容易に抜くことができます。

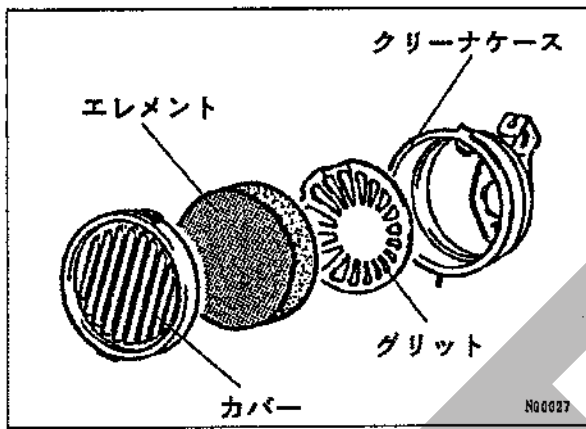
4. エアクリーナの掃除・交換のしかた

エアクリーナは、いつもエンジンを快適にする装置です。汚れたまま使用しますと、エンジンの出力低下や故障の原因になります。

エアクリーナのカバーを外します。

中のエレメントを取外して、白灯油で洗ってエンジンオイルに浸します。

エレメントを硬くしぼって取付けてください。

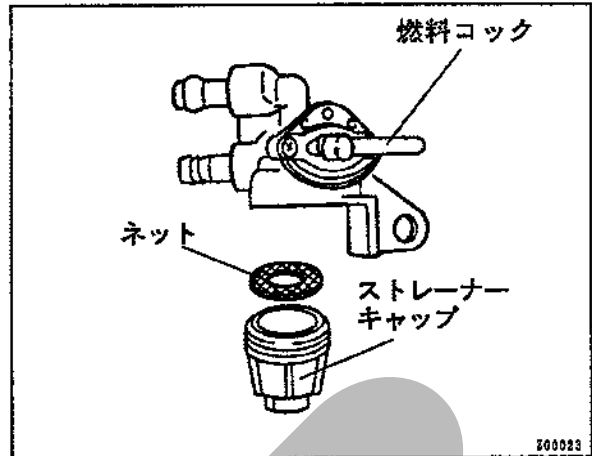


5. 燃料こし器の掃除のしかた

⚠危険

燃料コックが「開」になったままで燃料こし器を外すと、燃料タンク内の燃料が流れ出ます。万一、引火した場合、火災のおそれがありますので、必ず燃料コックを「閉」にしてください。

燃料の中に入ったゴミや水が燃料こし器に沈殿したときは、燃料こし器を外してゴミや水を抜取ってください。燃料こし器の掃除をするときは、燃料コックを「閉」にしてください。なお、ゴミや水の混入が多い場合は、燃料を抜取り、新しい燃料と交換してください。



6. 燃料パイプ・電気配線の点検のしかた

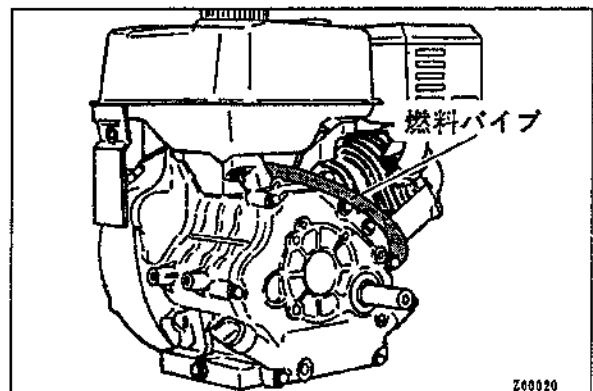
⚠危険

燃料パイプの老化や傷による燃料もれがあると、火災の原因になります。作業前後に点検し、もれがあれば交換してください。

燃料パイプの傷や接続部の締付バンドのゆるみ、燃料もれがないか確認してください。また、電気配線コードが他の部品に接触して被覆のはがれや傷、または、接続部のゆるみがないか点検します。燃料パイプや電気配線コードが傷んでいる場合は、販売店で修理してください。

燃料パイプは、傷んでいなくとも2年毎に交換するようにしてください。

電気配線は、1年毎に定期点検を受けてください。



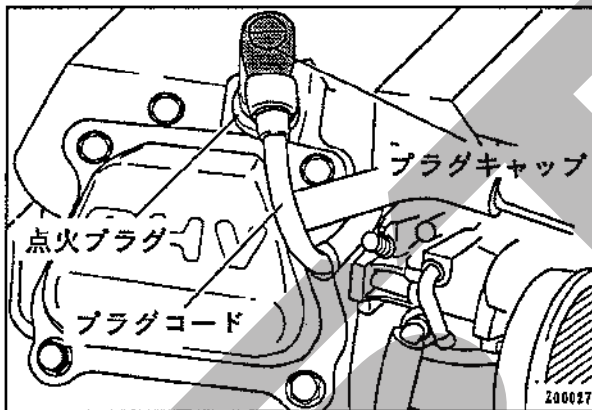
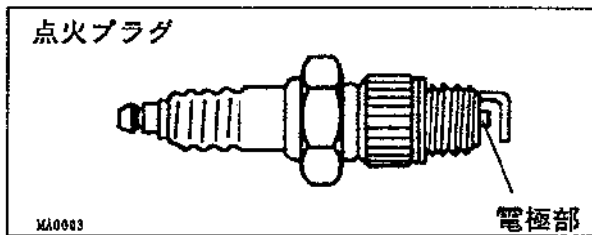
7. 点火プラグの点検のしかた

▲注意

エンジンが熱いうちに点火プラグを外さないでください。火傷のおそれがありますので、エンジンが冷えてから行ってください。

定期的に点火プラグを取外し、電極部の焼け具合、損耗程度を点検し、ワイヤブラシで清掃します。

標準点火プラグ	NGK製(BP5ES)
---------	-------------



電極部の清掃をしてもまだエンジンのかかりが悪い場合は、お買い上げいただいた販売店で点検を受けてください。

電極部が損耗または、破損したものは新品と交換します。そのまま使用するとエンジンの不調、燃料のムダ使い、排ガス不良となります。

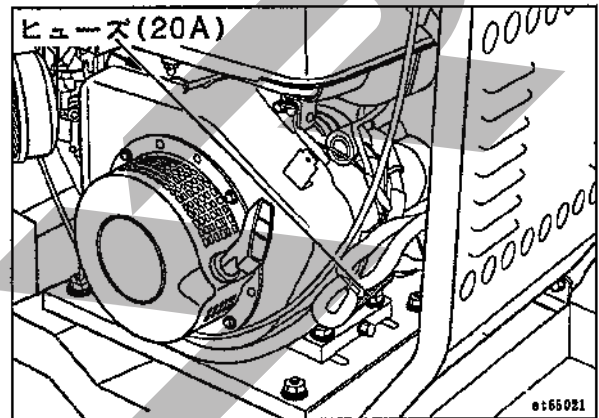
プラグコード・プラグキャップは、点火プラグに確実に差込んでください。

8. ヒューズの点検・交換のしかた

ヒューズは、配線回路(通電している回路)へ過大電流が流れた場合、溶断して電流を遮断します。

エンジンカバーを開けます。

エンジンのファンケースカバーの前に20Aのヒューズがあります。ヒューズ切れの場合は、交換してください。



ヒューズを交換するときは、バッテリーの⊖側コードを外してから、必ず規定容量のものと交換してください。規定容量以外のヒューズを使用すると故障の原因になります。

ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は、お買い上げいただいた販売店で点検を受けてください。

9. バッテリーの整備のしかた

▲危険

バッテリーの点検・充電時は、火気厳禁です。守らないと引火爆発し、火傷を負うおそれがあります。バッテリー液は、希硫酸ですので身体や服につくと、服が破れたり、火傷を負うことがあります。もし身体や服についたときは、すぐに水洗いしてください。

バッテリーからコードを外すときは、必ず⊖側から外し、取付ける時は必ず⊕側から取付けてください。工具などが接触したときにショートして、火傷や火災事故をまねくおそれがあります。

バッテリー⊕ターミナルのゴムブーツは必ず取付けておいてください。ショートするとやけどや火災事故をまねくおそれがあります。

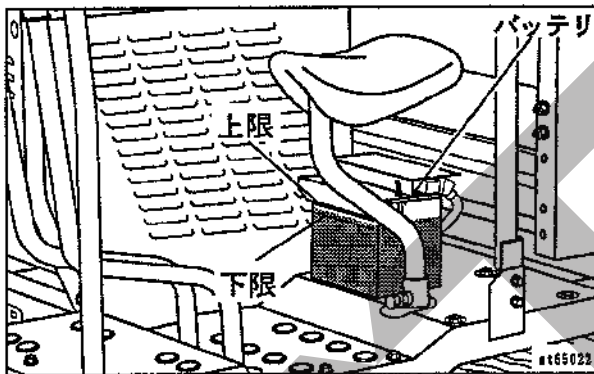
バッテリー充電中は、ガスが発生しますので風通しのよい場所で行ってください。

警告

バッテリー液は、「上限」と「下限」の間にあることを確認してください。もし「下限」以下になると、容器内の極板接続部が露出し、エンジン始動時に火花が出て、容器内のガスに引火して破裂するおそれがあります。

電解液点検

作業前には、各槽のバッテリー液がバッテリーケース液面レベルの上限と下限の間にあるか確認してください。不足しているときは、蒸留水を補給してください。



蒸留水は、ガソリンスタンドで販売しています。

補充電のしかた

充電は、バッテリーの⊕を充電器の⊕側に、バッテリーの⊖を充電器の⊖側に行いますが、充電器の取扱説明書を充分お読みになってから行ってください。なお、急速充電はできるだけ避けて、普通充電を行ってください。

格納のしかた

格納時は、本機を水平にし、バッテリー液がこぼれないようにしてください。長期格納時は、バッテリーの⊖側のコードを取外すか、バッテリーを本機から取外し、日光の当たらない、乾燥した場所に保管してください。

取扱い上の注意

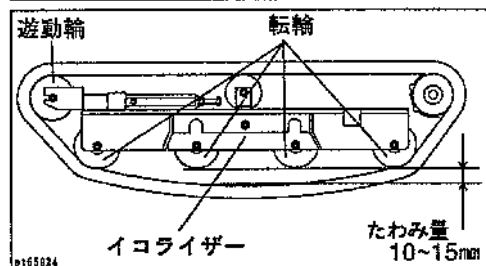
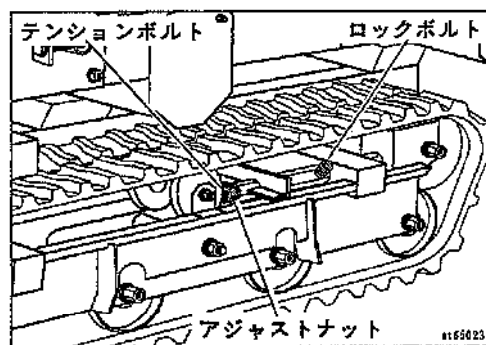
- バッテリー液は、常に規定量を保ってください。
- バッテリー液をバッテリーケース液面レベルの上限を越えるほど入れますと、使用中に液漏れし本機を腐食させることがありますので、補給するときは液面レベル上限を越えないよう注意してください。

- 寒冷地などの気温の低い地域、またエンジンの始動がしにくくなったり、ライトが暗くなってきましたら、充電を行います。また、2週間以上運転しないと、バッテリーが放電してセルスタータでの始動ができない場合があります。このときにも充電をしてください。
- 本機を長時間使用しないときは、最低1ヶ月に1回は充電を行ってください。バッテリーが長持ちします。
- 取付けの時、ターミナル接触部の油等を布で拭きとり、バッテリー端子を確実に締付けて、腐食防止のためにターミナル部にグリースを塗布してください。
- バッテリーを交換するときは、必ず規定のバッテリー(DR28A19R)を使用してください。

10. クローラの張り調整のしかた

注意

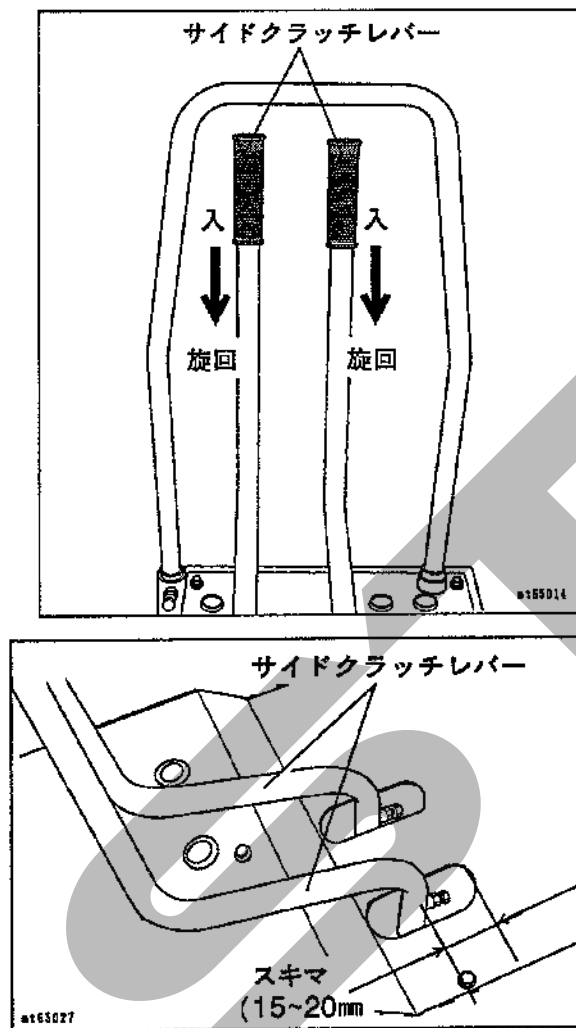
テンションボルトの調節後は、必ずロックナット・ロックボルトを締込んでください。クローラが外れたりして、思わぬ事故の原因となります。クローラが緩んだときは、ジャッキ等で機体を持ち上げてから安全ブロック等で降下しないように固定します。ロックボルトとアジャストナットを緩め、テンションボルトを締込んでクローラを張ります。このときのたわみ量が10～15mm程度にしてください。



調節後は、ロックボルトとアジャストナットを確実に締付けてください。

11. サイドクラッチレバーの点検のしかた

確実にサイドクラッチレバーが「入」・「旋回」できるように、サイドクラッチレバーの点検をしてください。サイドクラッチレバーが「旋回」位置の時のスキマが15～20mmあるかを確認してください。なければ、お買上げいただいた販売店で点検、調整を受けてください。

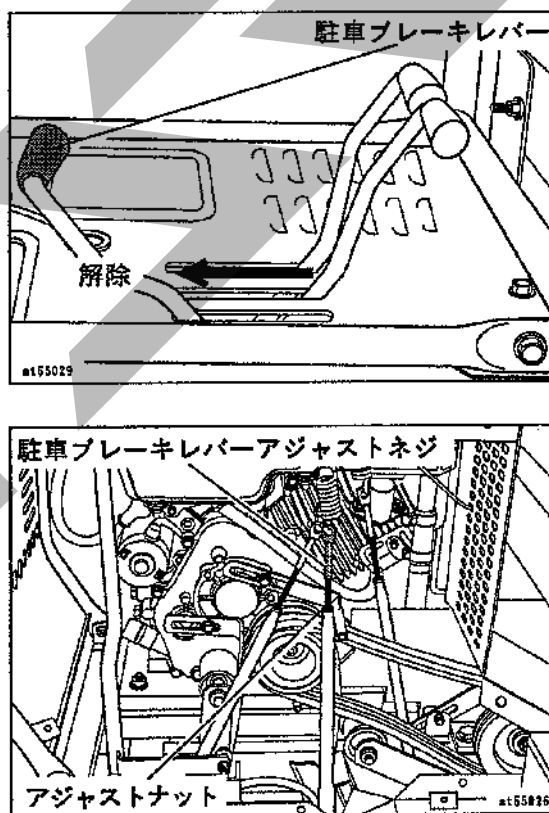


12. 駐車ブレーキレバーの点検のしかた

警告

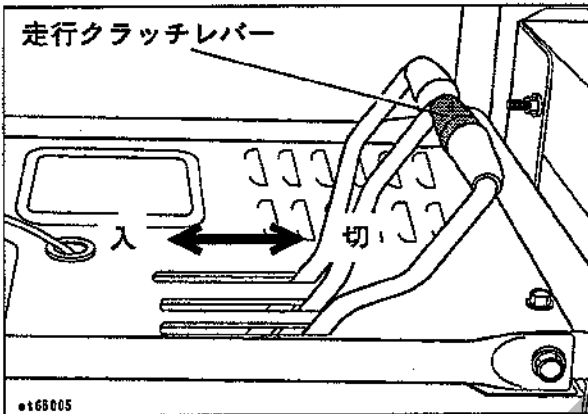
ブレーキの効きが悪かったり、ブレーキが効いたままにならないように点検してください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。

駐車ブレーキレバーを「解除」位置にして、駐車ブレーキレバーの遊び量(7～10mm)を調べてください。もし、規定の遊び量がない場合は、駐車ブレーキレバーアジャストネジで調節します。調節については販売店にご依頼ください。



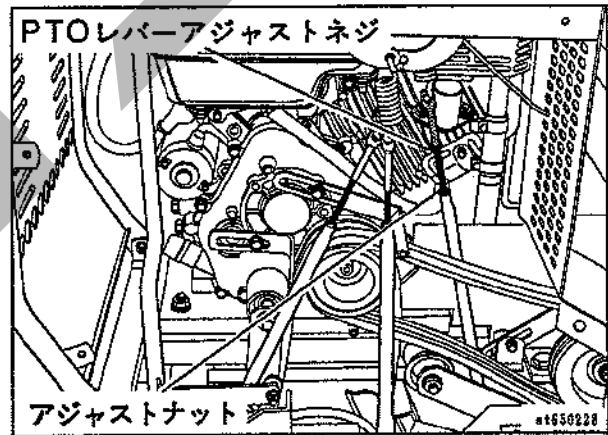
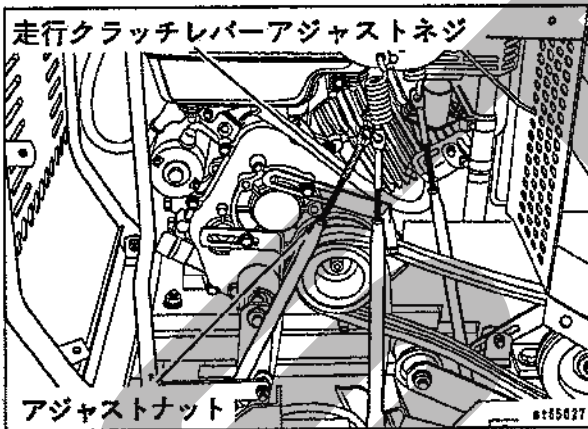
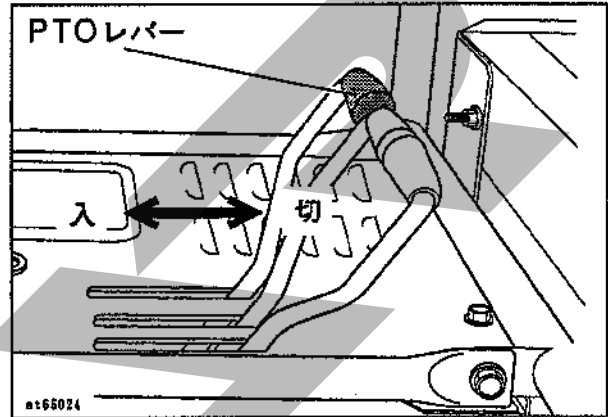
13. 走行クラッチレバーの点検のしかた

走行クラッチレバーの「入」「切」が確実に行われ、しかも「切」状態でベルトのつれ回りがいいか点検してください。もし、ベルトがスリップしたり、つれ回りが発生した場合は、走行クラッチレバーアジャストネジで調節します。調節については、販売店にご依頼ください。

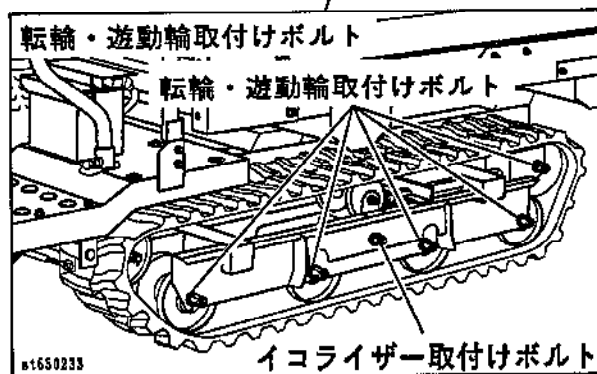
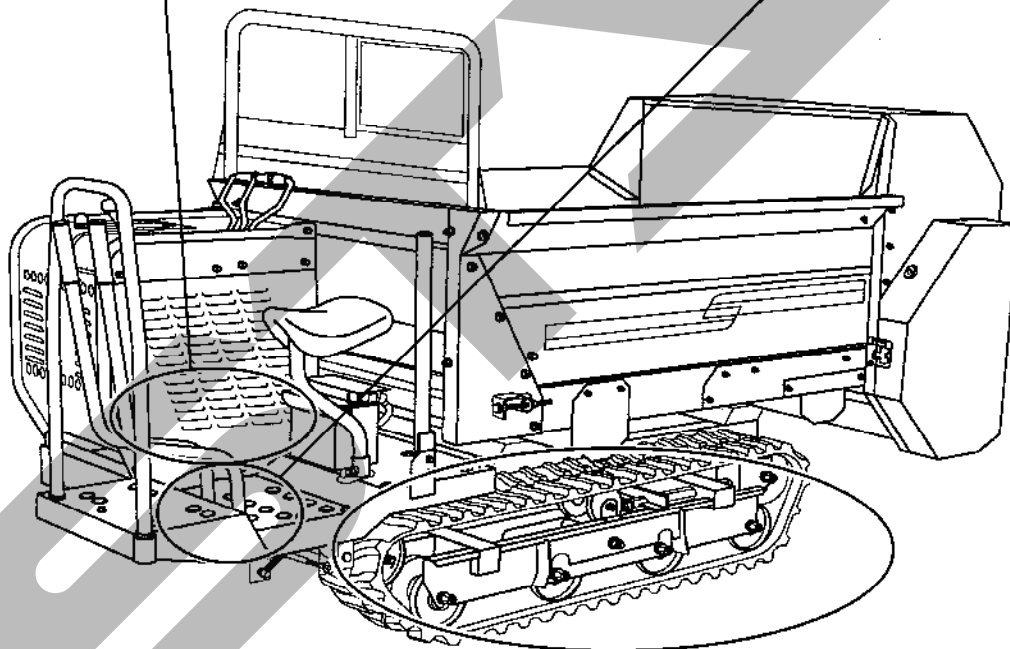
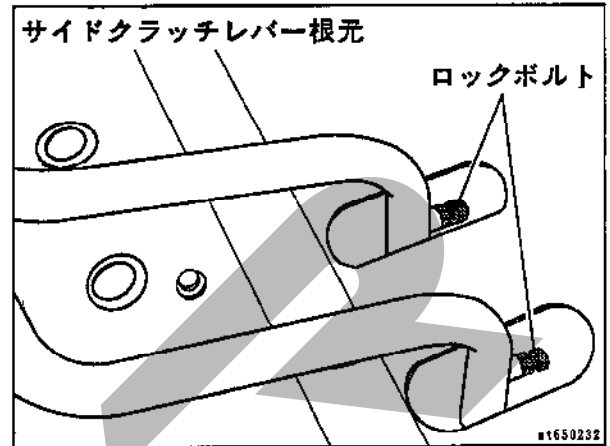
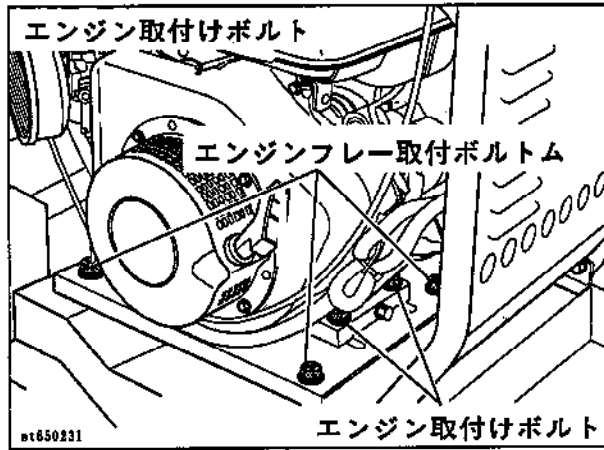


14. PTOレバーの点検のしかた

PTOレバーの「入」「切」が確実に行われ、しかも「切」状態でベルトのつれ回りがいいか点検してください。もし、ベルトがスリップしたり、つれ回りが発生した場合は、PTOレバーアジャストネジで調節します。調節については、販売店にご依頼ください。

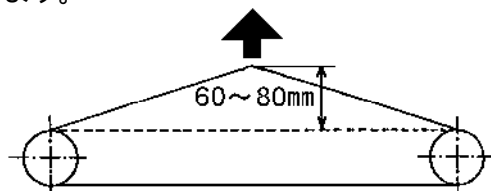


15. 締付けをするところ

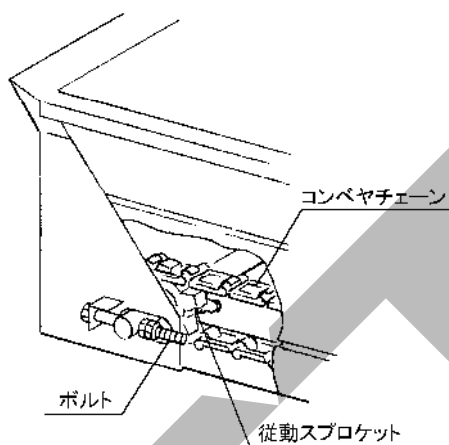


16. 床コンベヤチェーンの テンション調整のしかた

- (1) 荷箱内に入り、コンベヤチェーンの中央を40kgの力で持ち上げた時、チェーンが60～80mm持ちあがるようにセットします。



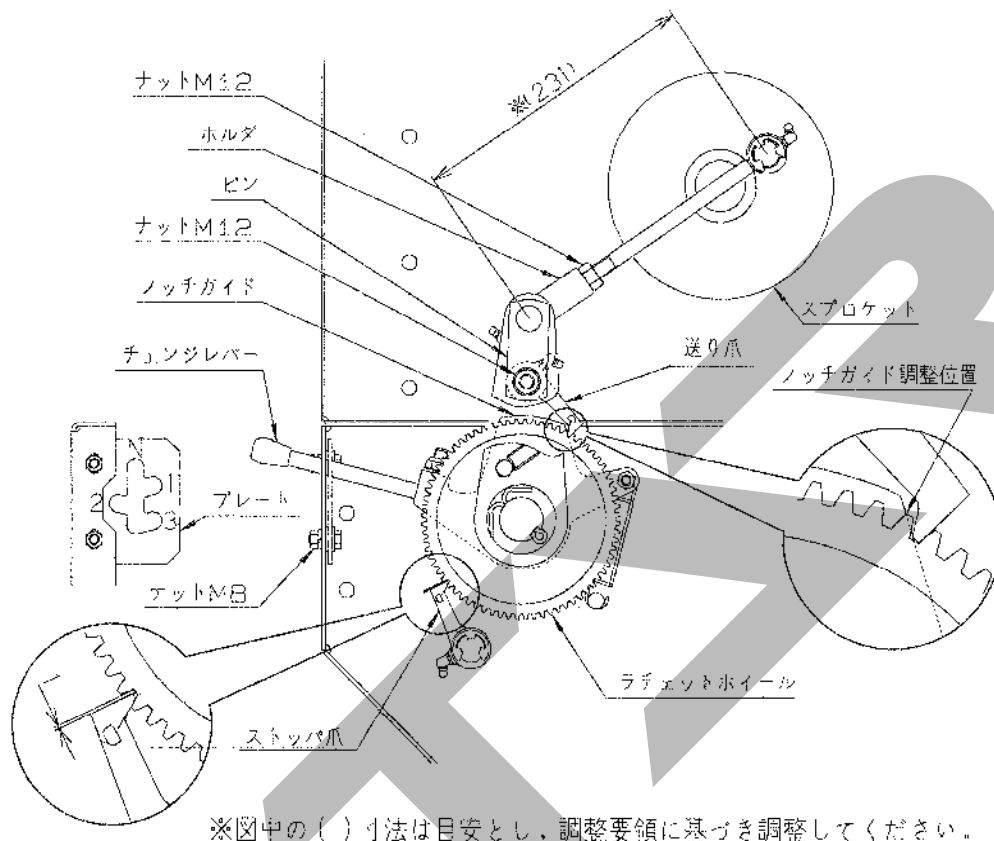
- (2) 左右のコンベヤチェーンの持ち上がる量が同じになるように、左右のテンションボルトを締め込んでください。



17. ローラチェーンの テンション調整のしかた

- (1) ローラチェーンが入っているカバーを開けてください。
- (2) テンションローラのボルトをゆるめてください。
- (3) テンションローラを動かし、チェーンを張ってください。
- (4) テンションローラのボルトを締めてください。
- (5) カバーを元通り取付けてください。

18. 床コンベヤ駆動部の調整のしかた



- (1) カバーを外してください。
- (2) チェンジレバーをNにセットしてください。
- (3) ストップ爪とノッチガイドの調整
 - 1) ストップ爪とラチェットホイールの歯面の間に1mmの隙間を開けます。
 - 2) ノッチガイドが図に示す位置(ラチェットホイールの歯面の角がノッチガイドの面と重なる位置)となるようナットM8を緩めてプレートを上下させ調整してください。調整後は元通り固定してください。
- (4) ストップ爪と送り爪の調整
 - 1) スプロケットが図に示す位置(上死点。送り爪がラチェットホイールを送り終え、送り爪がラチェットホイールの歯面と接した状態)に合わせてください。
 - 2) 1)の状態ですトップ爪とラチェットホイール

歯面の間に1mmの隙間が開くようホルダで調整してください。

- ・1mmより広い場合は、ピンを抜きホルダを反時計回りに回してください。
- ・1mmより狭い場合は、ピンを抜きホルダを時計回りに回してください。

ホルダは、ナットM12を緩め、ピンを固定しているナットM12を外してピンを抜き、回してください。調整後は元通り固定してください。

- (5) スプロケットが1回転したとき、チェンジレバー1～3でそれぞれラチェットホイールの歯が1～3つ、ストップ爪を乗り越えるか確認してください。また、チェンジレバーNでラチェットホイールの歯がストップ爪を乗り越えないことを確認してください。
- (6) カバーを取付け、固定してください。

不調診断

もし機械の調子が悪いときは、表を参考にし、必ずエンジンを止めてから診断してください。

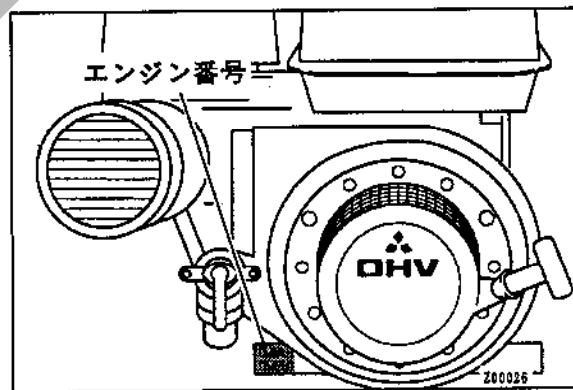
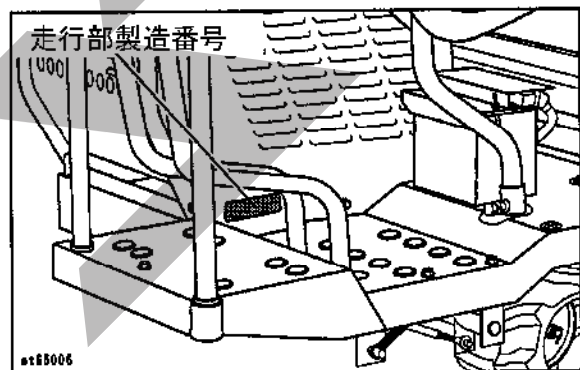
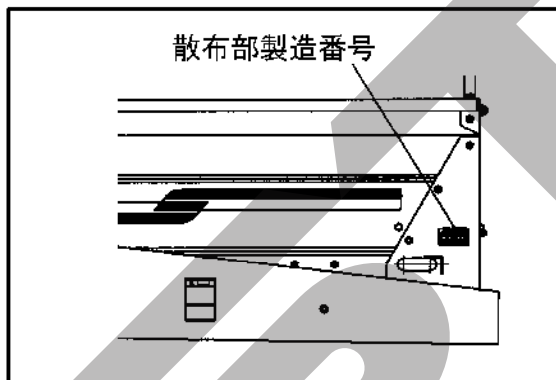
状 況	点検箇所	処 置
エンジンがかからない	燃料が切れていませんか。	燃料の補給をしてください。 (15 ページ参照)
	走行クラッチレバーを「入」位置にしていませんか。	走行クラッチレバーを完全に「切」位置にしてから、キースイッチを「スタート」位置に回してください。 (18 ページ参照)
	エンジンの始動手順が間違っていますか。	正しい始動手順でエンジンをかけてください。 (17 ページ参照)
	燃料に水が入っていませんか。	燃料こし器に水が溜まっていれば、燃料こし器を外して水抜きをしてください。 (32 ページ参照)
	バッテリーが上がっていませんか。	バッテリーを点検し、補充電してください。 (33 ページ参照)
	バッテリー液が減っていませんか。	バッテリー液を補充してください。 (33 ページ参照)
	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。 (33 ページ参照)
	点火プラグが悪くなっていますか。	点火プラグを外し、乾いた布などで良く乾燥させてください。 (33 ページ参照) 点火プラグの電極部を清掃し、それでもかからない場合は販売店で点検を受けてください。 (33 ページ参照)
エンジンの力がない	エアクリーナにゴミがつまっていますか。	エレメントを外し、白灯油で洗いオイルに浸し硬くしぼって取り付けてください。 (32 ページ参照)
	エンジンオイルが少なくありませんか。	エンジンオイルを補給してください。また、オイルが古くなっている場合は、新しいオイルと入れ換えてください。 (31 ページ参照)
	ベルトがスリップしたり張りすぎていませんか。	必ず販売店で点検を受けてください。 (36 ページ参照)
	エンジンの回転は上がりますか。	アクセルレバー取付け位置が動いていたら、元の位置に確実に固定してください。
	エンジンの圧縮がないのではありませんか。	ピストンリングなどの摩耗も考えられますので、販売店にご相談ください。
各部に振動が多い	エンジンが振れるのではありませんか。	エンジン取付けボルトを強く締め直してください。 (37 ページ参照)

不調診断

状 況	点検箇所	処 置
床コンベヤが動かない	ギヤ・シャフトが破損していませんか。	部品交換してください。
	ラチェットホイール関係が調整不良または損傷していませんか。	部品交換のうえ、調整してください。 (38ページ参照)
	コンベヤチェーンが破損していませんか。	部品交換のうえ、張り直してください。 (38ページ参照)
	コンベヤチェーンが外れていませんか。	テンションボルトをゆるめ、スプロケットにかけ直してください。 (38ページ参照)
ピータが回転しない	ローラチェーンが外れていませんか。	ローラチェーンをかけ直してください。
	ローラチェーンのテンションがゆるくないですか。	張り直してください。 (38ページ参照)

原因や処置の仕方がわからない場合は下記事項とともに購入先にご相談ください。

1. 製 品 名
2. 部品供給型式 (型式)
3. 製 造 番 号
4. エンジンの場合はエンジン番号
5. 故 障 内 容 (できるだけ詳しく)



仕様

主 要 諸 元 表				
型 式		JMS0660		
大 き さ	全	長 (mm)	2850	
	全	幅 (mm)	1200	
	全	高 (mm)	1700	
	質	量 (kg)	620	
機 関	銘柄型式名		三菱エンジンGB290LE	
	種 類		空冷4サイクル1シリンダー ガソリン	
	最大出力kW (PS)		5.9kW (8.0PS)	
	総排気量(cc)		296	
	始動方法		セルスタータ式	
	燃料/タンク容量(⊖)		ガソリン/6.0	
伝 動 ・ 走 行 部	変 速 段 数		前進3段 後進3段	
	走 行 速 度 (km/h)	前 進	1速	1.7
			2速	3.3
			3速	5.6
		後 進	1速	1.8
			2速	3.4
			3速	5.8
	クローラ幅(mm)		250	
	トレッド(mm)		610	
接地長(mm)		1044		
ブレーキ形式/取付位置		内部拡張式/走行ミッションブレーキ軸		

この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。

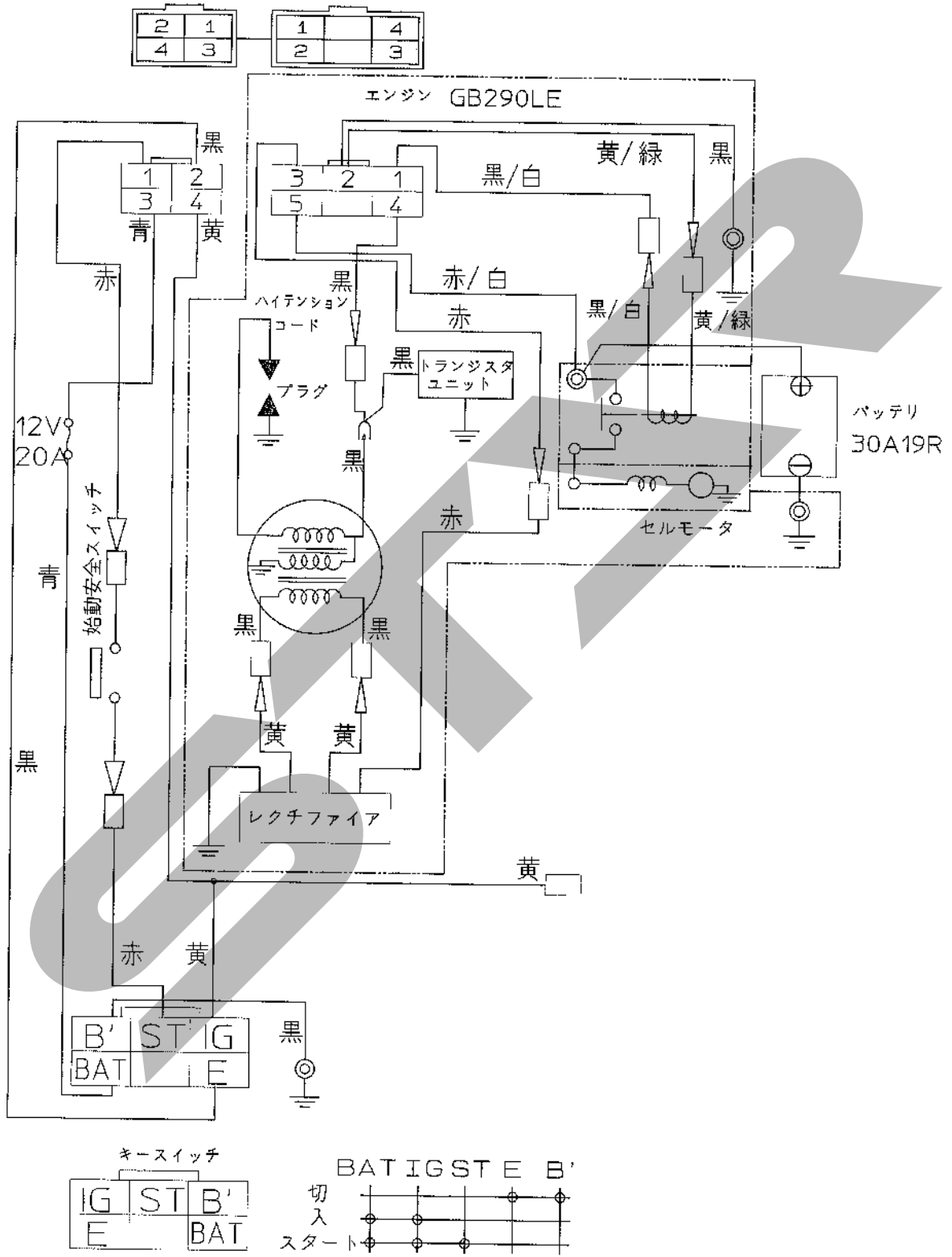
その他

主要消耗部品

No.	品名	備考
1	VベルトSB39	PTO用2本 2本
2	VベルトSB42	走行用2本 2本
3	アクセルワイヤ	
4	チョークワイヤ	
5	点火プラグ	BP5ES
6	エアクリーナエレメント	
7	ブレーキシューASY	走行ミッションブレーキ用
8	クローラ	250×72×44
9	バッテリー	DR28A19R
10	グリースニップル	A-PT1/8
11	グリースニップル	A-MT6×1
12	ボックススパナ21	エンジン工具
13	スクリュードライバー	〃

配線図

三菱エンジンGB290LE仕様



STARR

本社	066-8555	千歳市上長都1061番地2 TEL0123-26-1123 FAX0123-26-2412
千歳営業所	066-8555	千歳市上長都1061番地2 TEL0123-22-5131 FAX0123-26-2035
豊富営業所	098-4100	天塩郡豊富町字上サロベツ1191番地44 TEL0162-82-1932 FAX0162-82-1696
帯広営業所	080-2462	帯広市西22条北1丁目12番地4 TEL0155-37-3080 FAX0155-37-5187
中標津営業所	086-1152	標津郡中標津町北町2丁目16番2 TEL0153-72-2624 FAX0153-73-2540
花巻営業所	028-3172	岩手県花巻市石鳥谷町北寺林第11地割120番3 TEL0198-46-1311 FAX0198-45-5999
仙台営業所	983-0013	宮城県仙台市宮城野区中野字神明179-1 TEL022-388-8673 FAX022-388-8735
小山営業所	323-0158	栃木県小山市梁2512-1 TEL0285-49-1500 FAX0285-49-1560
犬山出張所	484-0894	愛知県犬山市羽黒字介職橋5番1 TEL0568-69-1200 FAX0568-69-1210
岡山営業所	700-0973	岡山県岡山市北区下中野704-103 TEL086-243-1147 FAX086-243-1269
熊本営業所	861-8030	熊本県熊本市東区小山町1639-1 TEL096-389-6650 FAX096-389-6710
都城営業所	885-1202	宮崎県都城市高城町穂満坊1003-2 TEL0986-53-2222 FAX0986-53-2233